

黒文字は戯曲抜粋。リーディング部分。

青文字は、今回ひぐちが新たに書き加えたト書き。

赤文字は俳優に覚えてもらおうセリフ。

はじまり

劇場は真っ暗闇からはじまる。

はじまり／アドウェントウーラ

真っ暗闇の中、
声だけが聞こえる。

発声のような、

チューニングのような、

ん…………

あ…………

ん…………

あ…………

楽器ではない。

人間たちの声。

あ……………

と、最後のチューニングの声が消えて。

しんと暗闇。

そして声だけがした。

俳優出口 はじめに声があった。

俳優得田 声の力。闇の中で存在を示す力。

俳優吉川 音の力。流れ出た言葉は世界を作る。

俳優のの 静かに、静かに、

俳優早川 静かに、

俳優出口 静かに、

俳優前田 静かに、

俳優得田 静かに、

俳優太田 静かに、

俳優吉川 静かに、

俳優橋本 静かに、

俳優のの 静かに。

ひゅんと灯り。

ふたつ。

交差する。

懐中電灯の灯り。

それを持つ人間が、二人。

そっと歩いてやってくる。

互いに、相手の姿を照らした。

若い二人。

明るい稽古着を着た二人。

稽古着たちのセリフは『さ。ぽろ。ぺ』から

稽古着1 ここ、昔なんやったんやろ？

暗闇から声が出た。

「う」

稽古着1、2はその声の方に懐中電灯を照らす。

何かが一瞬見える。

しかしすぐにまた別の声が出る。

「ど」

声が出る方に懐中電灯を移動させるが、

また別の声が出る。

「う」

稽古着たちの懐中電灯で浮かび上がるのは、
うっすらと人影。

いや、ただの壁なのかもしれない。

ただの影なのかもしれない。
壁のような、
影のようなそれらは、
微動だにしない。

舞台の間に紛れる俳優たちであり、
舞台のそこに染み付いた言葉たちである。

ドクンと聞こえる。
心音。

稽古着たちはそれを見る。
聞く。

るちおればこもでんかつもでんかつるなくやはんどんどはうどこ

1995年 『誰もが手にしたるもの』
※これは俳優たちが発する。

1996年 1999年 2003年 『さぽろぺ』

稽古着たち、再び互いの顔を懐中電灯の灯りで照らす。

稽古着たちのセリフは『さぽろぺ』から

稽古着2 なあ、ここ昔なんやったんやろ？

稽古着1 早くだよ。

稽古着2 ちょっと待って。

稽古着2、足元の何かを照らした。

稽古着1 なんやこれ？

稽古着2 なんか書いてある。

稽古着1 落書きか？

月子 さぽろぺ、さぽろぺ、私はここにいます。

月子 さぽろぺ、さぽろぺ、いつも笑っていられますように、いつも楽しんで
いられますように。

月子 さぽろぺ、さぽろぺ、独りぼっちじゃありませんように。誰かと話せま
すように。

月子 さぽろぺ、さぽろぺ、もつともつと強くなれますように。

月子・稽古着たち 「さぽろぺ、さぽろぺ、もつともつと強くなれますよう
に」

けい いくべ。

けい・そう いっせーのーで。

けい あほ。

そう しね。
けい 何してんねん。
そう ぐずぐずすんな。
けい ぼけ。
そう なんべんいうたらわかんねん。
けい このくず。
そう 能無し。
けい どっかいけ。
そう むかつくねん。
けい どじ。
そう だらだらすんな。
けい わかってんのか、こら。
そう うつとおしいんじや。
けい 死んでしまえ。

そう しね。
けい 何してんねん。
そう ぐずぐずすんな。
けい ぼけ。
そう なんべんいうたらわかんねん。
けい このくず。
そう 能無し。
けい どっかいけ。
そう むかつくねん。
けい どじ。
そう だらだらすんな。
けい わかってんのか、こら。
そう うつとおしいんじや。
けい 死んでしまえ。

けい あほ。
そう しね。
けい 何してんねん。
そう ぐずぐずすんな。
けい ぼけ。
そう なんべんいうたらわかんねん。
けい このくず。
そう 能無し。
けい どっかいけ。
そう むかつくねん。
けい どじ。
そう だらだらすんな。
けい わかってんのか、こら。
そう うつとおしいんじや。
けい 死んでしまえ。

俳優出口 僕らは罵り合った。
俳優のの 僕らを傷つける言葉に負けへんように。
俳優前田 死ね、ぐずぐずするな。
俳優太田 なんべん言うたらわかんねん。
俳優早川 もっと罵れ。
俳優橋本 もっと殴れ。
俳優得田 痛みを免疫を心に植え付けるから。
俳優吉川 僕らの心は痛みを感じひんようになる。
俳優出口 心はどんどんマヒするから、
俳優のの 僕らはもう傷つかんですむ。
俳優得田 言葉はその意味を失ったから、
俳優吉川 僕らはもう傷つかんですむ。
俳優早川 さ。ポろ。ぺ。さ。ポろ。ぺ。
俳優太田 もっと強くなれますように。
俳優橋本 さ。ポろ。ぺ。さ。ポろ。ぺ。
俳優前田 もっともっと強くなれますように。

けい・そう／稽古着たち 「訓練の始まりや」

稽古着2が、別の場所へ移動しようとして、

稽古着1が思わず止める。

稽古着たちのセリフは『さぽろぺ』から

稽古着1 いややー！

稽古着2 大丈夫や。

稽古着1 いややー！

稽古着2 弱虫。

稽古着1 弱虫言うな。

稽古着2 ほな行こう。

稽古着1 いややー！

稽古着2 あ。

稽古着1 え。

懐中電灯の灯りが照らしたところに、

ふと目を奪われる稽古着たち。

1997年 『黒子禁止』

霞 ああそうだ。昔こんな話があったんだけど。
聖 なに？

霞 あのね、ちょうど勇記先生が生まれた頃、1975年ぐらいにね、そのマ
タニティブルーっていうのがとても流行ったの。

聖 またにいてい？

霞 そう、今の聖ちゃんみたいに妊婦がナーバスになるの。これからどうしよ
うとか、育ていけるのとか、あと今までの自分が変わってしまうんじゃない
かと、そんなことを考えて悩んでノイローゼにまでなっちゃう人がたくさん
いたの。

聖 マタニティブルー……

霞 そう、その時にそんな妊婦たちの心を落ち着かせるすごくいい薬があった
の。聖ちゃんもその薬を飲んだら悩み事なんかなくなるんじゃないかしら。

聖 へえー。

霞 飲みたい？

聖 あんの？

霞 勇記先生。お水ください。

勇記 はい。

聖 効くんそれ。

勇記 はい、どうぞ。

霞 ありがとう。効くってもんじゃないわよ。24年前にマタニティブルーに
なった人たちはみんなこの薬を飲んだの。そしたら一気に何もかもから解放
されたような気になってブルーなんて吹っ飛ばしちゃったの。すごいでしょ。

聖 へえー。(飲む)

霞 ただねえ、妊娠していない人が飲むと劇薬になる可能性があるの。
聖 ブツ。なんてっ！

霞 うそよ。そんなわけないでしょ。それにそんなに驚かなくなつたつて。聖ちゃんは妊娠してるんだから。

聖 そ、そうや。

霞 でもその薬には後日談があるの。ある日妊婦の体からポツポツと斑点が浮き出てきたの。まるで黒子みたいに。

聖 じゃ害あるやん。飲んだらあかんやん。

霞 医者言う分だけ飲んでいればよかつたんだけど、飲みすぎたの。だってその薬を飲むだけで気持ちが悪くなつたから。

勇記 それは麻薬じゃないですか。

霞 飲めば飲むほど黒い斑点は増える。でもそれだけじゃなかつたの。

聖 何？ 何があんのっ？

霞 お腹の赤ちゃんの成長が異様に遅いの。医者は急いでその薬を使用禁止にしたわ。

勇記 そんな危ない薬飲ましていいんですか。

霞 そうねえ、この薬が効いてきたら聖ちゃんが本当に言いたいこと、不安なことをもつと喋りたくなると思うから。その時ちゃんと言ってくれたら力になれると思う。

聖 ホンマに言いたいこと……？

霞 ウソだと思いません。

勇記 えっ？

霞 聖ちゃんの妊娠。あれきつとウソついてるんです。

勇記 ええっ！ だってそんなウソついて何になるんですか？

霞 それが分からないのよね。

勇記 そんなことよりあの黒子！ いくら何でもあんな薬飲んで、

霞 いいのよ。だってただのラムネなんだから。

聖 はあーあせるわ、あのおばちゃん。変なもん飲んで。もお大丈夫かな？ 変な副作用でたらどうしてくれんねん。なんかカマかけられたみたいやわ。

もしかしてばれてる？ いやいやそんなことないよな、大丈夫よな。もつと妊婦らしくせなあかんのかな？ 妊婦らしいって……やっぱし腹ださなあかんのか？ うーん、あ、そうや、つわりって言うてたっけ？ つわつたらええんや

つわりは妊婦の醍醐味やんか。ドラマでもみんなつわって妊娠やからな！

聖 うつ。ゴホツゴホツ、ゴホツゴホツ。ほら、つわりや。

聖 リアリテイ、リアリティ。うう、リア……

聖 真剣に、真剣に……ゴホツゴホツ……

聖 なんでえ？ なんでなん？ ウソやろうお？

聖 ……おかしいわ、ホンマに。何でこんなに気分悪いねん。うつゴホツ。マジでつわり？

聖 ウソや、

聖 ウソやってんけど、

聖 ウソじゃなくなった。

稽古着たち、

あかりで照らしたそれらを読み上げる。

セリフは『黒子禁止』から

稽古着1 「ひとつの言葉から始まった」

稽古着2 「ひとつの嘘から始まった」

稽古着1 「ひとつの言葉を噛み砕いて、口の中には嘘が広がる」

稽古着2 「嘘が私を全部包み込んで、できあがった私は私のようで」

稽古着1 「私じゃない」

稽古着2 「ガリつとかめばかむほど嘘が勝手に歩き出す」

灯りを移動させながら、言葉をたどる。

1997年 1999年 2000年 『いづも魂』

プリケツ 隊長！ ちょっと隊長！

隊長 プリケツ！

プリケツ もープリケツって言いなや。

隊長 それどころとちゃうねん。ピンコのおかんもエログチのおかんもハンガーのおかんもおらんねん。

エログチ 三組の子らのお母さんもおらんみたい。

ピンコ 塾の子に聞いたら違う学校も同じや。

隊長 共通点はこの置き手紙だけか。

プリケツ 「こども魂が吹いた」？

プリケツ 何でいきなりみんなのお母さんまでおらんようになったんやろ？
あの人に影響されたんかな？

隊長 あの人ってプリケツのおかん？

稽古着たち、ハット、懐中電灯の灯りを別の場所へと移動させた。

花屋 花の命は結構短い。いや、短すぎる。咲いたと思たら枯れてしまう。昔の人はよう言うたもんやわ。十九み花、二十で咲き花、二十一ではしおれ花しおれた花は枯れて散って風に乗るだけ。その後は？ 散ったまんまそのままま、ただ見過ごすだけやわ。花びらだけでは花は咲かへん。かと言うて諦めたらそこまですよ。まあ諦めたい人はさっさと諦めて自分の人生、罵りなさいでも、諦めの悪い人は、もう一度咲かせてみいひんか？ 散った花には目もくれず、咲かない花にも未練はない。花が散ってしまうのは、これ、しょうが

ない。それでも散ってしまうのなら、綺麗な花を咲かせてみせよう何度でも！

ハンガー 誰やこいつ。子供やんけ。おかんちやうん。

花屋 もう一度やりなおしてみたいお母さん方、勇気を持って立ち上がってみて。

プリケツ このチラシ、「奥様必見、やりなおすなら今のうち。母でもなく、

女でもなく、もう一度なんでもない自分から出発」

花屋 その通り。今いちふんぎりのつかない人たちにほんのささいなキツカケを。

エログチ お母さんに家を出るって勧めてる見たいやろ？怪しくない？

隊長 頭使え、頭。こんな子どもに何が出来るねん。おかん連れ去るなんて出来るわけないやろ。

花屋 あほやなあ、あんたら。分からんか？もう1回やり直したいお母さんで

いっぱいや。私の言うてることがホンマなんやで。聞こえへんか？あの足音

プリケツ えっ？

花屋 もう1回花を咲かせようと歩いてくる足音。私が教えてあげたんや。

プリケツ 隊長、あれ。

隊長 おかんが、おかんがストライキを始める気や。

エログチ あの日からいつもと同じように朝はやってくる。ただいつもと違う

ことは、町は静まりかえってる。いつもの声がないから。

ハンガー おかあーさん、あーんあーん、どこにおんねーん。

エログチ 「昨夜未明、阿倍野区で生後1ヶ月の赤ちゃんをおいて母親が失

踪」と、ニュースキャスターは口を歪めて話す。日にちが増すごとに私らの

不安は膨れ上がる。日にちが増すごとにどんどん満月に近づいていく。

ハンガー 返事して、おかーん。

エログチ 全国ネットで放送されれば、それにつられる母親がまた一人。そうして泣き明かす子どもが一人。まるで十五夜祭の妖怪こども魂みたい。

稽古着たち、またハッと、灯りを別の場所へ。

ハンガー みんな聞いてくれ。

プリケツ ハンガー、どうしたん？

ハンガー 俺がみんなのおかんを取り戻したる。

隊長 あのな、おかんは今、花屋に乗せられてるだけやって。テレフォンショッピングとかでも、おかんすぐ乗せられて買いよるやる？ でもすぐに飽きるやる。最後には帰ってくるって。いつまでも家開けっぱなしにするか。

ハンガー 待っても帰ってこうへん時は奪いに行くねん。

ピンコ 相手しとれんわ。

エログチ ハンガーってこんなにアホやったっけ？

隊長 お前のこと今日からマザコンって呼ぶぞ。

プリケツ 大丈夫。ハンガーのお母さんは帰ってくる。今はお母さんの定休日やと思つとこう。

ハンガー お前、強がりを言うなハゲ。みんなも強がりと言うなボケ。みんな俺と同じちゃうんか。同じこと思つてんのとちゃうんか。

隊長 そんなこと言うてもお前に何が出来るねん。俺らは待つしかしゃーないやる。

ハンガー そうや。ハンガーは何にもでけへん。

隊長 ほらな。

ハンガー でも妖怪なら何でも出来る。妖怪ならおかんを奪うことが出来る。子供たち あほか！

隊長 妖怪なんか、ほんまはおらんねん。昔の人が作った作り話や。

ハンガー 泣いて泣いて泣き明かして、生み出した答えや。子供なんか何の役にもたたん！ だから俺は妖怪こども魂や！ 風に乗つておかんを探し出す。

風を起こして風に舞う。吹き荒れるこども魂、吹き荒れるこども魂、俺を乗

せて吹き荒れる！

稽古着たち、風を感じたような気がした。

ピンコ これ……風？

隊長 偶然や。海から来る潮風や。

プリケツ でも風や……

エログチ 風や！

ハンガー 困ったことがあったら呼んだらええ。いつでも助けに来たるわ。

隊長 ハンガー。

ハンガー 違う！

隊長 こども魂！どこ行くねん。

ハンガー おかんの匂いにする。さらば！

セリフは『子ども魂』から

稽古着1 これ……風？

稽古着2 偶然や。

稽古着たち、感じた風を追いかけようとして、

懐中電灯を動かす、

と、

別の何かが気になった稽古着2。

1998年 2002年 『眠りの切り札』

セリフは『眠りの切り札』から

稽古着2 「私たちつてもともと…」

稽古着1も、稽古着2が見ているところへ近づいて。

稽古着1 「もともと気が……」

香 私たちつてもともと気が狂ってるんだって。

香 夢の中で安全に気が狂えるから、起きている間は正常でいられるのよ。ほら、眠ったら筋肉も緩んで、もし人を殺す夢を見ても行動には起こせないでしょう？ 夢遊病なら分からないけど。だからね、眠らないと、起きている間に気が狂っちゃうんだって。

あかりを流れるように動かす稽古着たち。

1998年 2004年 『誰もが手にしたるもの』

董 チャイムを聞いて走り出した、4時25分。別に急がなくちゃいけない用事なんてなかった。携帯も鳴らなかつたし。でもこのまま学校にいても得なことなんてないように思えて……駅の改札。通学定期を使う気にならなくてしやがみ込んだ、4時32分。通り過ぎる人を見つめて、5時15分。何人も通り過ぎていく中で黒い靴が足を止めた。嘘か本当か極上の笑顔で話しかけてきた、5時47分15秒。

銅 時給1500円。たった3時間で4500円。10時には家に帰れるけどどう？ ムリかな？

董 これから何をする訳でもない。と答えると、すぐさま男は私の腕をつかんで歩き出した。

銅 簡単だから、誰でも出来るし。でも、どうしても高校生の女の子じゃないとダメなんだ。

董 YES、と答えた訳でもないのに勝手に話を進める。普通ならここで大声を出すんだろうか？

銅 このマンションの3階なんだけどね。

董 別に怖くもなかった、興味もなかった、あるのは3時間暇がつぶせるという感覚。

銅 どうぞ。

董 薄暗い部屋。けむたい空気。青白く光る画面。湿った匂いが鼻をかすめた別に怖くもなかった。興味もなかった。

銅 こっちに座って。

董 私の方に手をかけた。別に怖くもなかった。興味もなかった。

銅 簡単なモニター。感じたこと、思ったことを素直に言ってくれればいい。はい。これ持って。

董 機械的な形なのに手の中になじむ。目をつむってその形をたどる。

銅 Aボタンで選択。Bボタンで決定。防御は横のボタンで、進むのは矢印の通りで。

董 早口で説明する。その時やっと分かった。

銅 簡単でしょう？

董 私の手の中に押し込まれた物の正体。

銅 何か質問は？

董 説明書はないんですか？と、きくと。

銅 説明書なしでやって欲しいんだけど。

董 どっかの会社の人ですか？と、聞くと。

銅 あ……言い忘れてた。

董 財布を探って名刺を差し出す。一応名の通った会社だった。でも別にホッとしなかった。だってもともと不安に思っていた訳でもなかったから。

銅 今度の新作にしようかと思つて。それでどうしてもリアルな反応が見たくて。

董 「めんどくさい」それが素直な気持ちだった。けど男の目が早くしろと言っているようで、私はノロノロとコントローラーを握り直した。別に怖くもなかったし、興味もなかった。

銅 思ったことはなんでも言つて。

董 そんな私とは正反対に男はうれしそうに……

銅 じっくり画面を見て。スタートするから。

董 これ以上ないっていうくらい笑顔でモニターの電源をONにした。モノクロからカラーの世界。

銅 始まりの画面をよく見て。

董 緑色の画面が浮かび上がって。そこに、

銅 ほら、よく見て。

董 赤色と青色のリボンがうねってからまって、

銅 光の三原色って知ってる？

董 画面いっぱい。真っ白な光を放って、

銅 これがヒントになるからよく見て。

堇 だけど、何かが動いているようで、それは、
銅 その緑、絶対に黄色にしちゃいけないから。
堇 息をするように。
銅 黄色になると色の三原色になるんだ。
堇 脈を打つように。
銅 それは、真っ黒に変わる。
堇 画面の向こうが、動き出す。

稽古着たちのセリフは『誰もが手にしたるもの』『さ。ポ。ろ。ぺ』から

稽古着1 「A K A N E 茜」

稽古着2 「M O E 萌」

稽古着1 「A O I 碧」

稽古着2 「さあ行こう」

稽古着1 さあ行こう？

稽古着2 「ポ。ポロン持って」

稽古着1 ポポロン持って？

稽古着2 「ロンドンへ」

稽古着1・2 「ペッ」意味分からん。

稽古着2 意味分からん。

稽古着1 意味分からん。「さ」

稽古着2 「ポ」

稽古着1 「ろ」

稽古着2 「へ」

1996年 1999年 2003年 『ギョロペ』

古川 僕らは魔法の言葉を手に入れた。それは僕らの無敵の要塞の奥深くに刻み込まれている。そのボロボロの壁は仮の姿だ。今の僕らと同じように、ただ変身する前の弱い弱い仮の姿。

けい 体中の感覚全部引っこ抜く手術とかないんかな。

そう 何にも感じひんようになるからか？

けい うん。強くなり隊、隊長としましては声を大にして言いたーい。

そう 俺ももつと強くなりたーい。

けい でもな、おかんが学校いかんでいいよって言うてくれたら無理に強くならんていいのにな。

そう でも、おかんは行け行け言うから強くならなしゃーないやん。

けい そうや、そう君。

そう 何？

けい 引きこもろう。おかんにも文句言わせへんくらい引きこもるねん。

そう あかんって。分かってないな。一步も部屋からでたらあかんねんで。

けい うん。分かってる。

そう トイレどうするねん。俺のリサーチでいくと、おまるやね。

けい まる！？

そう 問題は風呂やな。ウェットティッシュで拭くしかないな。

けい そうくん。もし部屋から出たら？

そう 撲殺。

けい 誰が？ 誰が？

そう 引きこもり協会。
けい 無理や。僕には無理や。
そう 俺もおまるは嫌やな。
けい やっぱり強くなるしかないかなあ……クラス替えて運命の日やな。あれで僕の人生メタクソや。
そう 4年の時のクラスが良かったな。けい君もおったし。
けい あの四角い中で運命決まるねん。
そう だから、強くなってひっくりかえすねん。
けい さぽろぺ、さぽろぺ、もつと強くなれますように。
そう さぽろぺ……これ言うてたら何か効き目ありそうやな。
けい この言葉、ほんまに誰が書いたんやろ？
そう 書いた奴も強くなりたかつたんかな
けい 強くなれたんかな？
そう さあな……でも、さぽろぺって何やねん。
けい さぽろぺか……さゝ
そう さ？
けい さみだれや。
そう お。掛け言葉か？ポは？
けい ポ？……ぽーぽーぽっぽ、ぽーぽー。
そう まじめに言え。それ日曜日の朝のハトやん。
けい ばかにするな。これにはすごい力があるねん。おとんはこれ聞いたらみんなぐだーってなるねん。ほんでぐだーとなるのが嫌なおとんは日曜の朝早く起きて鳩が鳴く前にゴルフに行きよんねん。
そう もうええ、俺は真面目に考えてるのに。
けい ごめん。
そう よし、浮かんだ。俺に続け。さあ、行こう。
けい さあ、行こう。
そう ポポロン持って、
けい ポポロン持って？
そう ロンドンへ。
けい そう ペっ！……意味分からん。
けい 僕も、ほんまは真剣に思ってることあるんやで。

そう 何やねん。
けい これは強くしてくれる神様や。
そう あははははは。
けい あははははは。
そう めっちゃかっこええやん、それ。
けい やろ？ 絶対そうやと思っねん。
そう そうや、これ俺らの合言葉にしよう。
けい おお、それええやんけ。さぽろぺさぽろぺ、強くなれますように。そう
君、訓練しよ。

古川 時間が来るのを待っている。教室で学校が終わるのを待つように。

そう お前次どんな訓練すんの？

けい 僕いつも服部に集中攻撃されてんねん。だから脅迫電話攻め。夜中じゅう電話かけて、「獅子丸は？ 獅子丸出せや」って言うたんねん。

そう かなり度胸いるなそれは。でもしつこさも訓練されて一石二鳥っちゅうわけや。

けい うん、そう君は？

そう 俺な、またあいつらに殴られてん。

けい また？

そう だから制服ドロボー。体育の時間にこっそり取ってダスターシユートに入れるねん。

けい それも度胸いるな。

そう 訓練のおかげかな。全然怖ないで。

古川 さぽろぺ、さぽろぺ。最強になるために。ここにある全ての文字バケたちを掻き集めているのだ。

けい びびってやめたほうが負けやで。

そう わかってる、

けい ほな訓練開始。

ヒュ——……

けい それでは特攻隊長、1番乗りいかせてもらいます。

そう 武器は？

けい やかんです。特攻隊長。

そう よし、目標、北北東の青い車。

けい 狙いよし。準備完了。

そう 秒読み開始。

けいそう 3、2、1、発射！

ヒュ——……

そう それでは2番手いかせてもらいます。切り込み隊長。

けい 武器は？

そう アンブレッラ。

けい 目標、南西のベンチ。

そう 準備完了。

けいそう 3、2、1、発射！

ヒュ——……

けい 次の目標、赤いチャリンコ。

ヒュ——……

そう 準備完了。次の目標、ブランコ。

ヒュ——……

けい 準備完了。狙いよし。

ヒュ——……

そう 発射！

ヒュ——……

けい 当たれ！

ヒュ——……

そう 発射！

けい 当たれ！

そう お、切り込み隊長、蟻が集まってきました。全体撤収。
けい できません。

そう 切り込み隊長、撤収。

けい まだ訓練の途中です。

そう けい君？

けい 今逃げるわけには行きません。

そう ちよつと待てよ、お前。

けい 今逃げたら僕は弱いまんまや。

そう 待てや。

けい 目標、あいつや。狙いよし。

そう やめろ、けい君。

けい 秒読み開始、3、2、1、発射！

ヒュ——……

ヒュ——……

ヒュ——……

ヒュ——……

ヒュ——……

ドン

古川 無敵の要塞。それが小さな少年によって沈黙の巨人に変身するのだ。ビルに張り巡らされたパイプ管は動脈と静脈。エレベーターは心臓。聞こえてくるのはシュウシュウと息をする音。ここはもう巨人の内蔵の中になる。

けい 当たりや。

そう 当たりって、お前……やばいって。

大木 明日のお天気の前に速報ニュースです。本日、午後5時頃、大阪市内のマンションで西田浩史さんの次女ちかちゃん、小学校3年生がマンションの8階から落ちてきた花瓶で頭部を強く打ち、重傷を負いました。

そう お前、どうすんねん。

けい 何で？ 訓練やん。

そう 当たってしまったんやぞ、隠れる。

大木 目撃者の話によりますと花瓶を落としたのは小学校5年生の男児2人だったということです。

けい 大丈夫や、マンガの通りやんけ。「マンガの真似したかったんです」って言い訳も用意してるねんから。何びびってるねんな。そう君の負けや。

そう 負けも勝ちもあるか。俺こんなつもりじゃなかったのに。

けい そうか、わかった。

そう 何がやねん。

大木 2人は花瓶だけでなく、傘、石、植木鉢なども立て続けに投下していたようです。

けい 僕らはすごいんやで。こんなすごいことができるんやで。

大木 この2人の男児になぜ落としのかと警官が質問したところ、最近小学生に人気の古川悟さんの漫画を読んで「一度真似をしてみたかった」と答えたそうです。

そう けい君、訓練はやめや。失敗や、聞いてるか？

けい もうちよつとで成功やる。だって僕は見つけられたもん。

そう さぽろぺ様か？それは俺らが考えた神様やる。そんなんおらんやんか。

けい そうや、さぽろぺ様は神様違う。

そう うん。僕らの合言葉や。

けい さぽろぺは合言葉違う。

そう なんで？強くなるための、

けい さぽろぺは神様よりもっともつとすごいねん。

古川 さぽろぺ。さぽろぺ。最強は無だ。なにもない。なあんにもない。最強

になるために、全てを無にするのだ。それは破壊の言葉か？向こう町を指す

と、ゆらりと巨人は立ち上がり、地響きとともに一步踏み出す。そうだ、

ひっくり返してやるんだから。

稽古着1、ポツリと。

稽古着たちのセリフは『さぽろぺ』から。

稽古着1 誰が書いたんやる？

ぐるっと、

稽古着2 壁、床、窓、蛍光灯、天井……

懐中電灯を巡らせた。

稽古着1 壁、床、窓、蛍光灯、天井……

稽古着2 壁、床、窓、蛍光灯、天井……

稽古着1 壁、床、窓、蛍光灯、天井……

懐中電灯の灯りは何かをとらえた。

1999年 『深流波』

昇子 どうしたの？ ネコちゃん、カメラちゃん、まこっちゃん。何かあつたの？ ねえ……

真 ……またやっちゃった。だからかえしてって言ったのに。

藍 なんでこんな事するの？

真 ごめんなさい。

藍 謝ったつてしようがないじゃない。焼きついちゃったわよ。

真 ごめんなさい。もう何も触りません。写真しか触らないから、ごめんなさい。許して下さい。僕はただかわいいなあと思つて。

藍 こっち来ないでよ。

真 いつもみんなそう言うんだ。

藍 だからカイブツなんだ。

真 いつもみんなそう言う。だけど、違う。潰したいんじゃないから。

藍 こっち来ないで。

真 ……ごめんね。もう帰るから、ごめん。

昇子 ねえ、まこっちゃん。

真 え？

昇子 こっち来て。頭、おでこ、目、ほっぺた、口、アゴ。大丈夫、キバナんてないんだからカイブツじゃないよ。

藍 目隠ししてたからそんなこと言えるのよ。私はちゃんと見たんだから。

昇子 だけど指先から見えるものもあるよ。肩、腕、手のひら、指。ほら、だんだん見えてきた。

真 ……さすが、人生5年目のお子様の考えだね。

昇子 どうして潰しちゃうの？

真 昔、昔、カイブツは初めて黄色いひよこを見ました。

藍 それが関係あるの？

真 縁日でやってるひよこ釣り。1匹釣れてうれしくて、手のひらで小さなひよこはヨタヨタして、ふわふわした毛と黒い目とちっこいくちばしがかわいくて。初めて思いっきり抱きしめました。やわらかい感触。それが生暖かい感触に変わった瞬間。横っ面をはたかれた。もう2度とこんなことをしないように、やわらかい感触のかわりに冷たいカメラを手渡された。抱きしめたくなったら写真に撮りなさい。それでもあの感触が忘れられなくて、でもやっぱり潰してしまう。

昇子 だからカメラを持ってたの。

真 カイブツはキセキが起こらない限り人間にはなれないのです。おしまい。

藍 私、帰る。恐いもん。

真 いいよ。僕が帰るって言ってるだろ。

昇子 ちょっと待って。

藍 何よ。

昇子 もしよ、もし、まこっちゃんが潰さなかったらそれってキセキだよ。

藍 それが何？

昇子 私、ずっと考えてたの。キセキの七色の波に触れてどんなキセキが起こるのかな？って。私はどんなキセキが見れるんだろうって。

藍 この子が潰さないことがビックウェーブデいのキセキだって言うの？

昇子 だって私とカメラちゃんはキセキが見たい。まこっちゃんはキセキの波に触れてキセキを起こす。すごいそろってるじゃないねえ。

真 都合のいい解釈だけど、そうだったらいいのに。

藍 もういいわよ。私、帰る。キセキが来なかったら潰しちゃうじゃない。そりゃ昇子ちゃんは目隠ししてるからいいけど、私は焼きついてしまうもの。

ここにあのグシャ！ っとした瞬間が焼き付いてるの。これ以上見たくないから。

昇子 好きで目隠ししてるんじゃないもん。

藍 ……ごめんなさい。ちょっと言い過ぎね。本当にごめんなさい。だけど帰るわ。笑った顔して話しかけてきて恐い。さようなら。

昇子 本当に帰っちゃうの？ カメラちゃん！ ちょっとー。

真 もう行ったよ。

昇子 本当に帰っちゃったんだね。

真 いつもバレないように笑って明るくするんだ。その時はみんな真って呼ぶんだけどグシャってやっちゃうと、すぐにあだ名がつくんだ。

昇子 カイブツ。

真 毎日そう呼ばれると、もしかしたら本当に僕はカイブツなんじゃないかって思えてきて。

昇子 潰したかっただけ？

真 違う。

昇子 かわいいって思ったからでしょう？ でも本当にかわいいなら加減したらいいのに。

真 どうやって抱きしめるかなんて教えてもらわなかったもん。いつもこのカメラとつるつとした写真だけ。このままだったら本当にカイブツになってしまいうさだから。

真 誰も本当の名前を呼ばなくなるだろうなって。

真 だけど潰したのは事実だし、自業自得かな。さっきのネコも、ごめんなさい。

昇子 大丈夫。誤ったら許してくれるよ、ネコちゃんだって。ねー。にゃーお出しておいで。ニャオニャオ、ちゃんとまこっちゃん謝ってるからねえ。出しておいでってば。

真 あのさ。

昇子 ちょっと待ってよ。猫ちゃん呼んでるんだから。

真 潰すって意味分かってる？

昇子 へ？

真 潰すんだよ。呼んだって返事するわけないだろ？

昇子 ？

真 そうか、そうか。何だ、そうだったんだ。そりゃ恐くないよ。

昇子 何よ。またバカにしてるな。その言い方は。

真 潰すって言うのは、

昇子 うん。

真 僕のこの手が、

昇子 うん。

真 息を止めるってこと。

昇子 うーん？

真 消えて、なくなる。ネコの体はここにあるけど、心が跡形もなく消えてなくなつた。僕が消したんだ。潰すっていうのはそういうこと。

昇子 跡形もなくなる。じゃあ2番目のネコちゃんになるの？

真 ならない。ずっとずっと、なくなつたまま。3番目にも4番目にもならない。ただ消えただけ。

稽古着2 壁、床、窓、蛍光灯、天井……

稽古着1 壁、床、窓、蛍光灯、天井……

稽古着2 壁

稽古着1 「隊長」

稽古着2 床

稽古着1 「エログチ」

稽古着2 窓

稽古着1 「ハンガー」

稽古着2 蛍光灯

稽古着1 「ピンコ」

稽古着2 天井

稽古着1 「ブリケツ」

稽古着2 は、は、は、

稽古着2、くしゃみをしてから。

稽古着2 「……花屋」

稽古着たちのセリフは『さぽろへ』『こども魂』から。

1997年 1999年 2000年 『こども魂』

プリケツ 分かった。やっと分かった。なんで私の体が固まったんか。何で花屋の泣き声が私にだけ聞こえたんか、何で花屋になったんか。

プリケツ 泣くはずないって思ってた。私と同じように笑ったりするわけないって思ってた。だって私が生まれた時からずっとおるから。

プリケツ 私、怖かった。あの人と話すのが怖かった。なんか言ってる嫌われたらどうしようって、そんなこと思うのが変なんかもしれへんけど。

プリケツ もしかして、今行っても嫌がられるかもしれへん。でも、どうしても聞きたいことがある！

花屋 何や？ お母さんやったらみんな帰ったで。もう誰のお母さんもおらん。

プリケツ 花屋がおる。私は花屋に会いに来てん。

花屋 あんた……

プリケツ おか……花屋は何をやり直したかったん。全部？ 花屋がしてきたこ

と全部あかんかったん？ 私を……

花屋 疲れた。考えられへん。体も動かへん。でも気分ええわ。久しぶりや。こんなに泣いたん。泣けて嬉しいっておかしいやろ？ そうや、そうやわ。私ただ泣きたかったんや。泣きたい時に、泣きたい場所で、ほんで、誰かそばにいてくれて大丈夫やでって、言うて欲しかったん。

プリケツ 花屋？ 花屋！

花屋 あんたも災難やな。でもあんたのおかんは妖怪こども魂に食べられたって思っとき。その方がええやろ？ 風が吹いて妖怪が現れて……

プリケツ 私が、花屋を食い尽くしてしまったんかな？

花屋 母親は消えた……

プリケツ 花屋、花屋、聞こえてる？

花屋 女の花は咲かず。

プリケツ 花屋！ お願い、聞きたいことがあるねん！

花屋 もう、疲れた。

プリケツ もう一回やり直すって言うてるけど、どうやり直すの？ 何をやり直したいん？

花屋 私は……

プリケツ 花屋、花屋……喋って、動いて、もう一回喋って。目つむらんとって、黙らんとして、答えて！ 私が嫌やったん？ 私が……

花屋 プリケツ……？

プリケツ もう一回、子供の頃からやり直して時間が過ぎて、また誰かを好きになつたら、そしたら、どうすんの？ 私を……

花屋 また誰かを好きになつたら……？ そしたら、私はやっぱりあんたを産みたいわ。そしたら、今度こそ。

プリケツ 花屋、目つむらんとして、黙らんとして、もう一回喋って。

隊長 プリケツは走った。

エログチ ペダルをこぐ足に力を込めて。

ピンコ どこまでも続く道を力いっぱい。

ハンガー 走って走って走って、このまま心臓が破裂してしまえばいい。

プリケツ 私の体が固まったとき、花屋は元気やった。花屋の体が固まった時

私は元気やった。

子どもたち 走って走って走って。このまま心臓が破裂してしまえばいい。プリケツ ひっくりかえさな。私が食べてきたものを全部返すから。

ピンコ 走って走って走ってこのまま手足がなくなってしまえばいい。

エログチ 走って走ってこのまま呼吸が止まってしまえばいい。

プリケツ 全部返すから。だから、目つぶらんという。

隊長 走って走ってプリケツは涙を流した。

ハンガー 走って走って。

プリケツ だからもう1回喋って。

ハンガー プリケツの体は……

子どもたち ちぎれ飛んだ。

プリケツ お母さん。

稽古着たち、思わず。

稽古着たち プリケツ！

叫んでからお互いの顔を見た。

ちよっと恥ずかしい。

稽古着たちのセリフは『さ。ぽろ。ぺ』から。

稽古着たち 何熱くなってるねん。

稽古着たち、ふうと一息ついて。

カバンからおもむろにペットボトルを取り出す。

一口のむ。

ふう。

稽古着2 「気つけや」

稽古着1 え？

稽古着2、懐中電灯の灯りで示した。

稽古着1はその灯りの方を見た。

2000年 『つむぎなつぐ』

樹(女) 気、つけや。

樹 へ？

樹(女) 自分でも気づかんうちに体のすみっこから穴があくねん。

樹 ……

樹(女) ムシくい。

樹 体に!?

樹(女) 知らんかったん？ そこらじゅう蟲でいっぱいや。何でみんな気づかんのかな？ 私なんかいつつも戦ってるのに。

樹 ムシでいっぱい？

樹(女) 体の中で私のこと好きなように動かすねん。あーあ、ホンマはこんなことしたくないのに、ホンマはこんなこと言いたいわけじゃないのって思うことない？

樹 ある……

樹(女) それ、全部蟲のせいやで。

樹 え？

樹（女） ホンマはこうしたいのに！ って。でも蟲がプチプチって生まれてモゾモゾ動いて邪魔する。

樹 蟲。じゃあ、その蟲どっか行ったらいいのに。

樹（女） あかん。

樹 え？

樹（女） 蟲に食われるやろ、穴あくやろ、蟲が出てくるやろ、そしたら体の表面ではいずりまわるやろ。今まで隠れてた蟲が出てくるねんで。私自身が蟲になつてしまふやん。

樹 うわあ。

樹（女） だから戦うの。蟲が勝つか。私が勝つか。

樹 どうやって？

樹（女） ふさぐねん。

樹 どこを？

樹（女） 体中、あっちこちから食い破ってくるんやから。耳も、口も、頭の中も。何にも考えられへんくらいに動き回る。

樹（女） でも、ガムテープがあれば十分や。

樹 蟲は、蟲は……

樹（女） 何？ ゆっくり。

樹 どうしたら、あの、蟲は、えっと生まれるの？ あ、違う、どうしたら蟲は生まれへんの？

樹（女） さあ、いつから生まれ出したんやろなあ？ うまく話せるようになってから？ いや、ついて行かれへんようになってからかな？

樹（女） 気つけや。蟲になつてしまわんように。

樹（女） もし私が蟲になったら誰が覚えててくれるんやろ？ 誰の言葉が残るんやろ？ 誰に言葉を残せるんやろ？

樹（女） あんたも蟲になる前に、誰かに残しておきや。人間やった証拠。

稽古着たち、懐中電灯でお互いを照らした。

稽古着 1 誰が書いたんやろ？

稽古着 2 違う。

稽古着 1 え。

稽古着 2 壁、床、窓、蛍光灯、天井……

稽古着 1 壁、床、窓、蛍光灯、天井……

稽古着 2 全部、染み付いていくやんか。

稽古着たち、ただじっと真正面の暗闇を見据えた。

2000年 『ひとよ一夜に18片』

源 時野君。

時野 はい。

源 君の言ってた事、もしかしたら本当にあるかもしれないね。

時野 はい？

源 世界だよ。地面の下の世界。

稽古着たち、パッと地面に耳を当てた。

刃 あのね、これは遊びじゃないんだよ。

花嫁 え？

刃 僕は本気なんだから。本気で危険なものを排除したいって思ってるんだ。これは正義なんだよ。

花嫁 むずかしー。まあ、わかったわかった。

刃 だから悪い奴以外に噛みついちゃダメだよ。

花嫁 はいはい。

刃 そんな事したらすぐに僕が成敗するから。

刃 誓いを立てようよ。

刃 正義のために、我は悪き者を滅さん。ほら早く。

花嫁 はいよ。正義のために噛みつきます。

刃 まず、そこに散乱している骨、もらっていい？

花嫁 どうぞ。もう食べられないから私はいらない。何すんの？

刃 何で作ろうかなくなって考えてたんだけど思いつかなくて。でもさつき骨の話
を聞いて、使えるなって。

花嫁 何に？

刃 国旗を作るんだ。そのうち分かるよ。あんた名前は？

花嫁 何だっさいいけど、一応誓いの言葉を言ったから花嫁でいいか。あんた
は？

刃 心をとって。

花嫁 は？

刃 ヤイバ。行こうか、まず初めに……

刃 駅の改札を出てすぐ近くのマンションの301号室にガンマニアがいるん
だ。

花嫁 そいつ危険なわけ？

刃 犯罪犯すのも時間の問題。

花嫁 ほう、早めに対処ってことか。

刃 そう、僕はこの国からキケンを全て排除する。

花嫁 私の好きにやっちゃっていい？

刃 いいよ。噛みつけ、花嫁。

花嫁 イエイイ。

刃 それから次にローソンの角を曲がって右隣の家。

花嫁 そいつは何？

刃 ロリコンのやつはみんな排除しなきゃ。統計取っておいでよかった。花嫁
使い物にならないように引きちぎれ。

花嫁 気分爽快！ ねえ、ねえ、これって良いこと？ 良いこと？

刃 僕の考えには良いか悪いかはわからないの。悪を根絶やしにするのは絶対良い
こと。

花嫁 次は？

刃 殺人者のくせに公平に裁かれなかった奴ら。

花嫁 どうやって調べたの？

刃 情報はいくらだって手に入るから。

花嫁 でも一度は裁かれてるんでしょ？

刃 ぬるいんだよ。悪は悪で変わる事なんてないんだから。どうしても国が捌
かないなら……僕が裁いてやる。

花嫁 どうやって？

刃 だから国旗。僕の国にしちまえばいいの。

花嫁 じゃあ、私死刑執行人のお役人にして。

刃 優秀だもんね。

花嫁 こいつらみんな食っちゃっていい？

刃 息の根に噛みつけよ。

花嫁 楽しそう。

刃 骨を断ち切ることはその言葉も声も奪う事。

稽古着たち、地面から耳を離して。

日世子 もうどこまで伸びているのか私にも分からない。捕まえ損ねたわ。

忍 君と話していて良かったことが一つある。

日世子 何？

忍 想像力。

日世子 想像じゃないわ。本当に手をひらひら振っていたのよ。

忍 本当は外に出たい。

日世子 出たくない。

忍 僕のことだよ。怖くてさ。どうして他の人たちは武装せずに平気で外を歩けるのか、どうして武装している奴らを野放しにできるのか。言葉で傷つけられることなんて僕にとってそれほど重要じゃないんだ。肉体がなくなってしまうえばその言葉を言うこともできなくなるんだから。

日世子 だからずっとそこに居るの？

忍 ここにいて役に立たない統計とって、情報を見るくらいしかできない。だから余計に腹が立つんだ。でも、想像だよ。

日世子 え？

忍 考えたこともなかった。きつとずっとこの部屋で過ごすんだろうって思ってたから。でも、何度も何度もシミュレーションしていけば、外で動き回る僕を想像すればいつかは外に出られるかもしれないって思えてきたんだ。君がルートを伸ばしたように。

日世子 私は自分で伸ばしたんじゃないわ。誰かと、あなたと話したから。勝手に伸びて……私の、私……

忍 何で？ 別に伸ばしたっていいんじゃないの？ 自分が外へ出た時のシミュレーションでしょ？

日世子 私から伸びてる？ 私が居るから？

忍 ちょっと待って。質問時間終了1分前だ。話してて面白かった。ありがとう。また偶然に質問時間で会えるといいね。

日世子 もうこの授業受けないわ。

忍 最後に名前教えて欲しいんだけど。

日世子 もう会わないからいいんじゃない？

忍 ここではいつも聞いているから。

日世子 ……日世子、日の当たらない世界の子って書くの。

忍 僕は心の刃って書いて忍。17才。

日世子 私ね、笑ってたの。

日世子 「事件が起きました」って聞いたたびに。町で見かけた交通事故は快感とさえ言っても良かった。事件が停滞するつまらなかつた。

日世子 他の人はみんな違うみたい。

日世子 誰かのせいにしたかったんだけど、でもこれが私……

日世子 怯えるようなものじゃなくて、これが私……

日世子 だから切るの。

日世子 私の骨を断ち切れば、私のルートを断ち切ればいい。声も言葉も奪って、二度とこんなこと考えないように。

稽古着たちのセリフは『さ。ポ。ろ。ぺ』『つ。ぶ。な。ら。べ』から。

稽古着1 誰も見てないと思っても、見られてる。

稽古着2 だって囲まれてるやん。

稽古着1 壁が聞いている。

稽古着2 床が知ってる。

稽古着1 傾向とが見下ろしてる。

稽古着2 聞こえる。

稽古着1 うん。聞こえるな。

稽古着2 なあ、ここ昔……

2001年 『獣のこのこ』

どこからか。

「いち、に、さん、いち、に、さん」

聞こえてくる。

「いち、に、さん、いち、に、さん」

かすかに。

「いち、に、さん、いち、に、さん」

稽古着たちはこの言葉がどこから聞こえ、
どこに書かれてあるのか、どうも見つけられないが。

猿丸 夜毎鳴いているのは犬か、猫か、赤ん坊か、男と女か？ それとも……三角の屋根は互いの体を突き刺すほどにせめぎ合って、山の深い谷間に木霊するようにその鳴き声は三角にぶち当たっては響き、ぶち当たっては響き、やがて空へ空へと昇って凍えた冬の空気にかき消されていく。見下ろせば、その声はさながら幾千人もの合唱のようだ。

「いち、に、さん、いち、に、さん」

猿丸 俺の喉笛が叫びを上げることがはもうない。食いちぎって言ったあの獣の口にぶら下がったままか？

「いち、に、さん、いち、に、さん」

猿丸 リズムをつけて、勢いをつけて、覚悟をつけて、次の屋根に飛び移るあっちのつむじまがりたちの中に、それとも掛け声をつけてこの冬を越そうとしているこっちのつむじまがりたちの中に……あの獣が混じってやしないかと俺は目を凝らす。

「いち、に、さん、いち、に、さん」

俳優出口 そろそろ降りよつかあ。どうする？

「いち、に、さん、いち、に、さん」

俳優太田 いや、まだここに残るわ。

「いち、に、さん、いち、に、さん」

俳優得田 そっか。じゃあ行くわ。またどっかで会ったら……

「いち、に、さん、いち、に、さん」

俳優早川 いや、もう会うことないやろ。

「いち、に、さん、いち、に、さん」

俳優吉川 そっか。どうせ会ったところで……

「いち、に、さん、いち、に、さん」

俳優太田 どうせ枯葉の仮宿、仮住まい。

「いち、に、さん、いち、に、さん」

俳優のの しのぎを削ったあの日も一時凌ぎ。

「いち、に、さん、いち、に、さん」

俳優早川 知らん顔して通り過ぎたほうがええ。

「いち、に、さん、いち、に、さん」

俳優出口 春が来て寒さを忘れるように。

「いち、に、さん、いち、に、さん」

俳優太田 喉元過ぎれば、

猿丸 喉元過ぎて、冬過ぎて、春になれば寒さ忘れて春に酔う。それならいつそ忘れてしまおうか？ なのに何故追うか？ どこまで追うか？ これは恋か、恨

みか。そんなもんどちだってかまやしない、ヒューヒューと漏れる息をふさいでも、過ぎる喉元は食いちぎられた。忘れる喉はここにはない。

「いち、に、さん、いち、に、さん」

「いち、に、さん、いち、に、さん」

「いち、に、さん、いち、に、さん」

声のする方、

声のする方に、

あかりを向けてみる稽古着たち。

2002『眠りの切り札』

鹿子 街で知り合ったあの人たちは、「眠りを守る会」だつて。

捏造女・鍛冶屋 「隣の人は信用できますか？」

鹿子 眠りを妨げる原因は片っ端から片付けるんだつて。

捏造女・鍛冶屋 「隣の人は怖くありませんか？」

鹿子 原因は一度、罪を犯した人だつて。一度やった奴は二度やるから。

捏造女・鍛冶屋 「隣の人は何をしていますか？」

鹿子 人を傷つけるくらいなら死んだほうがマシがモットーで、罪人は人じゃないって。

捏造女・鍛冶屋 「隣の人は、誰ですか？」

鹿子 自分たちもいつ人じゃなくなるか心配だって。罪を犯さないように努力してる。

捏造女・鍛冶屋 「隣の人は罪人なのかもしれません」

馬男 鹿子。

馬男 逃げろ。

鹿子 え？

馬男 俺の足は、人の添い寝の物語を踏みつける蹄だ。止まらないぞ、もう。今度はお前が逃げろ。

馬男 踏みつけるな。そう思っているのに止まらない。

鹿子 私は正気で狂気の馬に乗る。

鹿子 私を背負ってる間は、誰も踏みつけない。私が手綱を持つてるから。

鹿子 馬男が走り出した責任くらい私が持つ。好きだけ走り抜ける。ただその足は逃げる馬の蹄。

馬男 違う。これは……

鹿子 逃げなきゃ。馬男も、逃げる。馬男の狂気に追い付かれないように、逃げろ。

馬男 目印がこの蹄の音だ。見てる、みんな見てる。今度は自分が踏みつけられやしないかと、不安な目で俺を見る。

鹿子 明日は我が身。もともと、誰もかれも、潜ませてるんだ。

馬男 いっぱいの杏の花の真ん中にいて、動けなくなった時に初めて気がついた。俺が最初に踏みつけた人にも、添い寝の物語があったんだ。それも何もかも一緒に踏み潰した。

鹿子 馬男、眠ろう。

馬男 え？

鹿子 馬男も知ってる。眠りが抑えてくれる。それが切り札だって。

馬男 駄目だ。

鹿子 力を抜く。

馬男 無理だ。

鹿子 目を閉じる。

馬男 やめてくれ。

鹿子 夢を見る。この続きは夢の中。

馬男 夢を、見てもいいんだろうか、俺が……

鹿子 もう一度真っ白から始まる。朝の現実の太陽と一緒に。

馬男 二度目も使えるんだろうか？

鹿子 え？

馬男 切り札は一度しか使えない。抑え込む眠りは二度とやってこないんじゃないだろうか。一度体を駆け巡ったウイルスを抑え込むように、同じ眠りに効き目があるんだろうか？

鹿子 そうか、一度しか、許してもらえないのと同じ。

馬男 止めてくれ。きっとまた誰かを踏み潰す。大した理由もなしに。誰か、止めてくれ。

鹿子 降ろして、

馬男 今降ろせば、鹿子を踏み潰す。

鹿子 馬男。

馬男 なら、切れ。足を切れ。足りないなら首も切れ。夢見ることなんかできないように。

鹿子 私が？

馬男 走れないように、踏みつけないように、もともと、誰かにやってもら

つもりだったんだ。

鹿子 だからあそこに、

馬男 熱がないなら、驚かないなら、できるだろう？

鹿子 私……？

馬男 早く、じゃないと、お前を踏み潰すぞ。

鹿子 私……

馬男 昨日の夢で、もう杏の花を踏みつけたくないんだ。

稽古着たち、ハッと思い出す。

稽古着たちのセリフは『眠りの切り札』から

稽古着2 「私たちつてもともと……」

稽古着1 「気が狂ってるんだって……」

稽古着たち 夢の中で安全に気が狂えるから、起きている間は、

何か聞こえたような気がして同時に。

稽古着たち しっ。

2003年 『アドウェントツアー』

模型屋 ピーンと張り詰めていました。空気が痛いくらいに冷たくて、じっと動かないんです。まるで世界が息を止めたようでした。まるで世界に俺ひとりだけのようでした。もし、たとえそうだったとしても、きっと昨日と変わらず仕事をするだろう。そのうち夜が明けて、あたり間のように街は音で溢れかえる。あの明けるか明けないか間の時間、あの微妙な時間、そこに立つと、自分がこの大きな模型の街を造ったように思えてくる。呼吸をしていない、街だ。いえ、俺はもちろん仕事で、あそこの運河にかかる橋からその向

この道の交差点までをデッサンしていたんです。今回の仕事は、2001年の明け方の街っていうか、今にも日が昇るぞって瞬間のこの街の模型を造ってほしいというお客さんからの依頼。空の色、何とも言えなくって。それに月。青白いような、薄らいでいくような。そんな注文のある仕事の依頼なんて初めてで、やる気出てきて、自分で朝飯まで作って思い切りかじったら、歯茎に激痛。トマトと卵とマヨネーズにまみれて……自分で入れるわけないだろう？ カセットテープサンドイッチなんて俺も初めてだ。

稽古着2 カセットテープ！

稽古着1 カセットテープ！

稽古着2 古臭い、

稽古着1 昭和の匂いがする。

稽古着たち カセットテープ！

稽古着たち、ウケる。

稽古着たちのセリフは『アドウェントウーラ』からが、

稽古着たち しっ。

耳を澄ます。

世紀 あんたしかいないじゃない。

模型屋 え？

世紀 だからあんたがテープ持ってたんじゃない。20世紀を再生したのは、

あんたでしょ？

模型屋 は？ ちょっと、

世紀 私たちを起こしたのも、動かしたのも、

模型屋 ちよつと、訳わからなくなってきた……

世紀 テープとデッキが会って、闇の中に1本の道を作ったのもあんたじゃない。
ない。

模型屋 テープとデッキ？……あんた、本当にどこから来たんだ？

世紀 20世紀。

ざわざわと、空気がざわざわと、動きはじめる。

模型屋 何？……なんだ……これ……

世紀 声の力……闇の中でも存在を示す力。逃げなくちゃ。あんたも早く。そのデッキ持つて。

模型屋 なんて逃げなきゃいけないわけ。電車が通るといつもちよつと揺れるだけだよ。そういつも。当たり前だ。それに電気の調子もいつもおかしくて昨日と同じ、当たり前……

世紀 再生したからよ。違法行為で裁かれる。きっとあんたも私も。

模型屋 分かった。分かったから、すぐ警察に電話して、家の人に迎えに来てもらおう。

世紀 そんなことより早く。

模型屋 いい加減にしてくれ、人の仕事場で……

世紀 仕事場？ そんなもん、どこにあるのよ。

模型屋 え？

ざわざわと、もっとざわざわと、空気が動き続ける。

世紀 流れ出した言葉は世界を作るのよ。早く、走って。

ドクン

ドクン

ドクン

ドクン

模型屋 流れ出た言葉は、世界を作る……？

稽古着たち言葉を追いかけてみた。

稽古着2 ながれ

稽古着1 でた

稽古着2 ことば

稽古着1 は

ドクン

ドクン

稽古着2 みんな知らんだだけ。

稽古着1 言った言葉が、どこへ行くか、

ドクン

ドクン

という心音は、

ずっと聞こえ続けている。

稽古着たちのセリフは『さ。ぽろ。ぺ』から

2004年 『誰もが生にしたるもの』

茜 萌、どうしたの？ はあはあ言っつて。前のあたしみたい。

萌 あああのね、茜。

茜 見て見て、たくさんでしょ？ これはケンカのだきどきね。こちがほら、猥褻なだきどき。あの時はびっくりしちやった。あおいつてほんとバカよね。

子供みたいにおもしろいことたくさん思い付くよね。一杯3人でつぶしたよね。

萌 ……うん。茜のだきどきどきをね。

萌 あのね茜、ああ、きつと、ひひひどいと、おもおもおも、

萌 私と碧はわわわで、悪者で、

萌 だから、もう、だからいいやよ。

茜 あたしが？

萌 違う。本当のこと言ったらききつと茜、ショック死、する。恨む。怒る。

激しく抗議する。

茜 そう、かな？

萌 そそそうかなって、気にならない？

茜 なるけど、でも恨んだりしないと思う。

萌 そそそそんなの分かんないじゃない。

茜 じゃあ教えて。

萌 本当に死んじゃうかもしれなし。

茜 変なの。

萌 何がよ。

茜 ワルモノならそんなこと気にしないで言うと思うけど。

萌 …そうだ、それを碧は、楽しんでる。

茜 萌は楽しくない？

萌 ううん、楽しでた。

茜 じゃあ萌も碧もワルモノじゃないね。

萌 ちち違うの。楽しむってことはただ単に「あははは」ってだけじゃなくて「にやり」って楽しみ方もあるわけで、碧は自分のことしか考えてなくてそしてそれは私もおんなじなわけで。茜のことなんて考えてなくて。

茜 でも好きよ。

萌 はあ？

茜 萌と碧がどんな「にやり」な楽しみ方をしたのかは分からないけど、でもやっぱり好き。だから……

茜 ひとつだけ聞きたい。

萌 何？
茜 あたしのこと、ちよつとでも……
萌 ちちちよつとでも？
茜 好きだった？
萌 えええ！ どうどうどういう意味？
茜 もしあたしの好きな人もあたしのことちよつとでも好きでいてくれたら、
どんな気持ちだろうって。そんなどきどき、碧も教えてくれなかったし、きつ
とこれからもないような気がするし。
萌 茜。
茜 教えて。
萌 ……
茜 お願い。萌はあたしのこと嫌いだった？
萌 すーすすすす好きよ。
茜 え？
萌 だっから、好きよ。
茜 ほんとに？
萌 うん……好き。
茜 ウソついてない？
萌 ……うん。ついてない。
茜 フッフッフッフー。
萌 何笑ってんのよ。
茜 だってにやけちやう。もう一回言って。
萌 ……す、すーき。
茜 あ……あたし知ってる。このどきどき。
萌 えっ？
茜 このどきどき、前から知ってるような気がする。
萌 う、うれしいの？
茜 にてるけどちよつとちがう。あたしが好きって言ったら萌も……
萌 好き。
茜 言ってくれる。もう一回言って。
萌 好きすぎ。
茜 もっと。

萌 茜が好き。
茜 もっと。
萌 茜？大丈夫？
茜 いいから、もっと、言つて。
萌 でも……
茜 もっと言つて。碧がね、前に言つてた。最高に気分のいいどきどきがあ
るつて。あたし、今がきつとそう。萌、タイムカプセルに入れなきゃ。見つけ
た。私のどきどき。だからお願い。
萌 す・き。
茜 碧はどうなんだろう？
萌 好き。これ碧の分だから。
茜 もっと。
萌 茜が好き。
茜 このどきどきはきつと……
萌 茜。
茜 あたしが一番知りたかったどきどき。MOE、好き。だからもう一回。
萌 好き……茜、大丈夫？
茜 このまま……
萌 好き。
茜 もっと。
萌 好き。
茜 もっと。
萌 好き。
茜 このまま。
萌 好き。
茜 もっと。
萌 茜、好きだから。
茜 幸せのどきどきのまま。
萌 茜！
碧 茜、茜、落ち着いて。大丈夫、大丈夫。抑えて、茜。
萌 もう無理よ。

碧 無理って誰が決めたんだよ。
萌 碧。

堇 息を2回吹き込み、肋骨にそって15回。

銅 1、2、3、4、5、6、7、

堇 A K A N Eの鼓動がどんどん大きくなって、

銅 8、9、10、11、12、13、14、15、

堇 つかんでもつかんでもこぼれ落ちる。

銅 1、2、3、4、5、6、7、

萌 碧の知らないところで時間は進んでいくの。

銅 8、9、10、11、12、13、14、15、

萌 碧の知らないところで私と茜の時間は進んでいくの。ゲームみたいにポーズで止まってるわけじゃないんだから。

銅 1、2、3、4、5、6、7、

碧 だからって何した？

萌 あげたのよ。

碧 何を？

銅 8、9、10、11、12、13、14、15、

萌 幸せの鼓動。

銅 1、2、3、4、5、6、7、

萌 何したって無駄よ、碧。

萌 消えたのよ。

碧 消えた……

碧 あ、あ、あ、茜が消えた。

萌 もう遅いよ。茜が消えちゃった。私と碧が消した。どうしよう、なんてもう遅い、遅い、遅い、文字なんかいらぬ、最高の鼓動なんていらぬ、もうないよ。だって、笑ったまんま消えちゃった。

心音はもうない。

静かに、

ただ静かに、

心停止音だけが響いている。

長い長い単調な音。

ぴ—————

突如、その心停止音さえ途切れて、

暗闇。

「あ」

と、稽古着たちだけが声をこぼした。

2025年 現在

それぞれのセリフは『さぽろぺ』『アドウェントウーラ』から。

稽古着1 なんやこれ。

稽古着2 マツクラ。

稽古着1 なんやこれ。
稽古着2 マックラ。
稽古着1 おーい！
稽古着2 おーい！
稽古着1 おーい！
稽古着2 おーい！
稽古着1 おーい！
稽古着2 おーい！
稽古着1 おーい！
稽古着2 おーい！

懐中電灯をカチカチとONにするはずの音が虚しく聞こえる。

稽古着たちは、呼ぶ。

おーいと問いかける。

ひたすら。

カいっばい。

声の続く限り。

チューニングでもなく、

楽器でもなく、

ただひたすらに、

問いかける。

おおおおおおおおおおおおおおおおい

稽古着たちの声、続く限りの声が途切れた瞬間。

俳優早川 世界は真っ暗になったそうさ。

俳優のの 真っ暗のまま。

俳優早川 何にもなくなっただって。

俳優得田 そこで僕らは何をするべきか。

俳優太田 声の力。

俳優前田 音の力。

俳優出口 闇の中でも存在を示す力。

俳優橋本 それは世界をつくるちから。

俳優吉川 人の声がね、一番高度な楽器だって知ってる？

小さく聞こえ始める。

発声のような、

チューニングのような、

ん…………

あ…………

ん…………

あ…………

楽器ではない。

人間たちの声。

あ……………

声の大きさに呼応するように。

明るく明るく、舞台が輝く。

壁のような、

影のような、

微動だにしなかったそれら。

彼ら。

俳優たち。

稽古着1、2と同じように、

壁のような、影のような彼らも、それぞれ自分の稽古着を着て。

発声のような、

チューニングのような、

ん……

あ……

ん……

あ……

あ……

と、最後のチューニングを終えると、

俳優たちは一礼した。

黒文字はリーディング部分。

今回ひぐちが新たに書き加えたト書き。

パソコン画面を読む。

赤俳優に覚えてもらおうセリフ。

どのセリフも戯曲からのコラージュ。

舞台は二つのエリアで構成される。

ひとつは、台本をReadingするReadingエリア。

もうひとつは、「言葉たち」が待機するパソコンエリア。

Readingエリアとパソコンエリアを行き来しながら舞台は進む。

はじまり

劇場は真っ暗闇からはじまる。

聞こえるのは、

たったひとつの呼吸音。

吐く。

吸う、吐く。

吸う、吐く。

やがて、そこに。

もうひとつ、

またひとつと、

呼吸音は増えて、

増えて、

増えて、

ひとつの大きな塊になった、その瞬間。

青白い光。

パソコンが開かれた。

ぴたりと、呼吸音は止まる。

パソコンを開いたのは、言葉高道。

椅子に座って、画面をじっと見つめている。
よく見る。

と。

その背後に影。

言葉たちの塊。

それらは言葉高道をじっと見つめ。

ささやいた。

まるで内側から。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉澤田 人間は何で出来ていると思う？

言葉中川 肉と内臓と、言葉だ。

言葉真嶋 皮膚の一枚に。

言葉小笠原 肉と内臓を生きながら燃やすことは出来ないけれど、

言葉小西 言葉は燃えるんだ。

言葉大路 皮膚の下で。

言葉太田 言葉は燃えるんだ。

パソコンに向かった言葉高道、ふっと両指をかまえて。

言葉高道 だから書かなきゃ。

指が、キーを滑る。

ささやく内側の言葉をとらえてキーを打つ。

言葉澤田 そこに

言葉高道 そこに人間がいて、

言葉中川 そこに

言葉高道 そこに争いがあつて、

言葉真嶋 言葉を

言葉高道 言葉を費やして、残ったもの。

言葉小笠原 弾丸

言葉高道 弾丸であり、言葉。

言葉小西 そして

言葉高道 そしてやってくる無音。

言葉大路 言葉の

言葉高道 言葉のない世界。

言葉太田 そこに

言葉高道 そこにまた人は言葉を降り注ぎ、

言葉高道 また新しい生命体を探し始めるのだ。

静かに、聞く。

言葉澤田 見えます。

言葉中川 見えるか。

言葉真嶋 見えます。

言葉小笠原 何が見える？

言葉小西 見えませんか？

言葉大路 見える。

言葉太田 見える。

言葉澤田 見える。

言葉中川 見える。

言葉真嶋 見える。

言葉小笠原 見える。

言葉小西 見える。

言葉大路 見える。

言葉太田 見える。

ささやきを打つ。

言葉高道 見える。

ぽ

ひとつ。

頭上に小さくあかりがついた。

言葉たち、見上げた。

2004年 『フルオーケストラ』

言葉高道 その瞬間、金網越しから手を伸ばして、奇々が裸々の首をつかんだ。

言葉高道の背後から、言葉大路と、言葉中川が抜け出し

Reading ヒリアへ。

奇々 ぬるいよ。裸々。自分で13昇るんだから。

裸々 ちよつと……

奇々 何やったって僕らはその罰を受けることは絶対ないんだから、年齢？
違うね、その問題じゃない。あれって人のための法律だから。今、ここに隔離されてるわけじゃない？ 僕らが街に出ると乱れるんだ、日常が。なのにもともに罰を与えられないのは、僕らが雑音だから。ほら、13数えてみて。

裸々 いち、に……

奇々 違うって。ド、レ、ミ、はいどうぞ。

裸々 ドレミファソラシドレミファソラ、

奇々 はい、13。ね。発見発見。だから想像で、13昇るの。雑音からメロディに変わるために。そした、ラ、人からズレた僕らは人に戻る。

裸々 苦し……

奇々 うん。苦しいよね。

裸々 助けて……

奇々 そう。自分が分からないことを知るの、体験するか、想像以上の想像力を使うか、どっちか。

裸々 死んじやう……

奇々 そうだね。死んじやうね。どうやったらラが叫ぶのか。ほら、死んじやう前に死ぬ気で想像しなきゃ。人に戻る前に死んじやイミないから。ホントに死んじやうよ。

裸々 ……ソド……

奇々 え？

裸々 ウソの音……だから、本気じゃない。

言葉高道 思わず手を離す奇々。

奇々 何それ？
裸々 つつげえ。

言葉高道 ゴホゴホとむせる裸々。

裸々 だから……奇々って、変なことばかり言うけど、ウソはつかないの。

奇々 ウソがないってなんで分かる？

裸々 ソドを使わないもの。

奇々 は？

裸々 声がね、ちょっとへんてこに高くなるもの。ウソを言う時。

奇々 誰でも？

裸々 誰でも。

奇々 ホントに？

裸々 ウソは、ソド。馬鹿にした時はソファ。悔しい時はドドド。楽しい時は

ラララ。意地悪な笑いはシシシ。あの子キライって言っても、照れ隠しの

時はミド。生まれつき。毎日うるさい。ゲーよ。呪文みたい。

奇々 言葉の裏側が聞こえるんだ。

裸々 だから、苦しかったけど、本気じゃないって分かった。

奇々 これをやると、みんな次の日からここに来なくなるんだ。

裸々 え？

奇々 みんな本気にして、そんなわけないのに。僕に殺されるって勘違いする

自分のやったことがどれだけひどいか分かったって、感謝してここを出て行

くんだ。せつかく教えてあげようとしたのに。

裸々 うん？

奇々 いつかでかいことしでかすよ。

裸々 どういうこと？

奇々 世界中は同じ言葉を使って、同じように話していた。東の方から移動し

てきた人々は、シニアルの平野を見つけ、そこに住み着いた。彼らは「れん

がを作り、それをよく焼こう」と話し合った。石の代わりにれんがを。しつ
くいの代わりにアスファルトを用いた。彼らは「さあ、天まで届く塔のある
町を建て、有名になろう。そして、全地に散らされることのないようにしよ
う」と言った。

裸々 何それ。

奇々 主は降りて来て、人の子らが建てた、塔のあるこの町を見て、言われた
「彼らは一つの民で、皆一つの言葉を話しているから、このようなことをし
始めたのだ。これでは、彼らが何を企てても、妨げることはできない。我々
は降りて行って、直ちに彼らの言葉を混乱させ、互いの言葉が聞き分けられ
ぬようにしてしまおう」主は彼らをそこから全地に散らされたので、彼らは
この町の建設をやめた……だって。神様のせいにしてる。どう思う？

裸々 言葉が通じなくなっただって、言ったじゃない。

奇々 おかしいよ。同じ言葉なら通じるっておかしい。裸々だって同じ言葉が
通じなかったから、こうなっちゃったんだろ？ だって自信ある？ また同じ
ことしないって。

裸々 やめてよ。

奇々 うん？

裸々 レレレ、レばかりで話さないで。

奇々 レって何？

裸々 レの音は、責める音だから。

奇々 責めてない。だって僕と同じだから。僕は裸々で、裸々は僕で、ちよっ
とだけ違うのは、僕には計画があったから、だから半年で済んだ。

裸々 計画？

奇々 例えば、レンガ積み上げたらどこまで行く？

裸々 手が届くところまで。

奇々 それで完成？

裸々 知らない。

奇々 完成しちゃったらどうなる？

裸々 知らないわよ。

奇々 想像しろよ。完成したら、

裸々 したら？

奇々 あとは崩れるしかない。それを神様のせいにしちゃいけない。きっと神

さまはバランスを取っただけなんだ。完成させようとするから駄目なんだ。積み上げたら崩れる。ルールってバランスだよ。高く積み上げれば積み上げるほど、ほら、分かる？

裸々 崩れたら、すごい。

奇々 そう。僕らも積み上げてる。

裸々 何を？

奇々 時間と感情。

裸々 成長期だもん。

奇々 だから、裸々みたいに大きく崩れる前に、神様みたいに自分でバランスを取る。

裸々 どうやって？

奇々 少しずつ、自分で壊すんだ。大きな被害が来る前に、自分で小さな被害を作る計画。

裸々 だから、常連なの？

奇々 そう。このことをみんなに教えようとしているのに、もう絶対にしないなんて、ありえないね。いつか取り返しつかないでかいこととして、本当に

13昇るんだ。僕なら、計画立てて、想像で13昇るよ。

裸々 奇々ってさ、繰り返すのは、生まれつきだからだって思ったことない？

奇々 そんな人間いないね。

裸々 私は、生まれつきズレてない？

奇々 違うよ。けどズレていくだけ。だって僕らは生きているんだから。

裸々 ねえ、も1回やって。

奇々 え？

裸々 本気で、って、奇々の計画があるから、本気のウソでいいから。

奇々 そんなこと言ったの、裸々が初めてだ。

言葉高道 金網越しに奇々が手を伸ばして裸々の首をつかむ。

裸々 分からないの。分かることは高いフェンス、町はあっち。虫が鳴いてる足が痛い。

奇々 痛みを感じろって方針だから。

裸々 痛みなら知ってる。分からないのは、私の痛いレベル3は他の人のどの

レベルなのかってこと。

奇々 痛い？

裸々 ううん、奇々の手が冷たい。ひんやりして、気持ちいいくらい。ねえ、も1回言つて。

奇々 雑音からメロディに変わるために。そして、ラ、人からズレた僕らは人に戻れる。

裸々 自分が分からないことを知るのには、体験するか、想像以上の想像力を使うか。

奇々 どうやったら、ラが叫べるのか。ほら、死んじゃう前に死ぬ気で想像しなきゃ。

裸々 ねえ、私にもちやんとあるのかな、始まりの……

奇々 酸素が肺に送り込まれてラの音が出る。きっと誰も想像なんかしないよ金網越しの僕らの会話。裸々は、どんなラを叫ぶ？

裸々 ラ……？

言葉たち、長音の発声練習のように「ラ」を発する。

ラー……
ラー……
ラー……
ラー……
ラー……

ラがいつの間にかメロディに変化して。

やがてラとも判別のつかないハミングになって。

その歌はどうやら作詞、高野辰之、作曲、岡野貞一の「故郷」らしい。

言葉大路与言葉中川は、パソコンエリアに戻り、

代わりに、言葉小笠原、言葉小西がReadingエリアへ。

ぽ、ふたつめのあかりが灯る。

日ので 生まれてこのかたこの十数年。初めて生身の世界に足踏み入れました
訳あって、人を探して歩いております。そんなあたしの職業は、虫も殺さな
い、かぎ分けを生業としております。食卓に並ぶ夕食の匂い、冬の道端焚き
火の匂い、少女が残していった髪の毛の香り、子供が服につけて帰ってきたひな
たぼっこの匂い、女が誘うための匂い、男が誘うための匂い、ヒノキのお風
呂の匂い、草花の匂い、雨の匂い、春の匂い、夏の匂い、秋の匂い、冬の匂
い、おや、南から春の匂いだ。風に乗ってやってくる。そのアナタ、故郷
の匂いを知ってるかい？ 調香師日のでが作ってみせましょうか。

扉男 ひとつだけ、教えて欲しいんだけど。

日ので 大人が聞くなつてのな、

扉男 ここは、日本だよね？

日ので そんなことも知らないで今までのな？ よく眺めたことないの？
観察力ゼロ。

扉男 答えになつてない。

日ので 何かないの？ 嗅ぎたい匂いって。

扉男 できれば俺の部屋の匂いを嗅ぎたいよ。

日ので はー。それどんな匂い？

扉男 どうなってる、

日ので いくつか教えてもらわなきゃ調合できないのな。

扉男 普通だよ、どこにでもある一人暮らしの男の、

日ので 普通の匂い？ 何それ、他には？

扉男 え……？

日ので じゃ何でもいいよ。何かないのかな？ 嗅ぎたいやつ。

扉男 ベッド。布団がふかふかで、シーツだってキレイで、

日ので それどんな匂い？

扉男 たまの休みの日に、母親が来てやっとベランダで干して、晴れてて、昼下がりの、だから、ベッドが日向の匂いがして。

日ので 昼下りのお日さんの匂いね。

日ので ひまわりの花びらがあってよかった。少し似てるから。ほら。

扉男 そう、言われたらそんな感じもするけど、

日ので 何？

扉男 少し、眠い……

日ので 鼻から吸ったら脳につながるのな。覚えてるんだって。匂いで記憶を？ 記憶が匂いを？ どっちが先か知らないけど。ちよっとー、ちゃんと匂い料金払って欲しいのな。

扉男 旅行なら、気晴らしに、何度もしたけど、いつだって、最後は、ただいまって、帰ってきたから。

日ので のな？

扉男 ……だから、あるはずなんだって、俺の、帰る、玄関……

日ので お師匠言った通り。シラズはいつでも彷徨ってら。へっくち。のな？ 風が出てきた……風に、乗るかな。お師匠、あたし絶対ノット・スメル・シシュウを完成させるからのー！ 見とけー！ 驚くのなー！

のなー、のなー、のなーと声がこだまする。

言葉太田、Reading エリアへ。

日ので 母はとうの昔に雲の上。

日ので 父は虫も殺さぬかぎ分けを生業としてその鼻どんな匂いも嗅ぎ分けて
生身の人間をよせつけけないほどの鼻の良さ。人間からは死臭がする。父とは
決して呼ぶなど言われ、捨て置かれた今年の2月。

言葉高道 夏の暑さで蒸れて死臭が余計にひどい。

言葉高道 島に扉男ひとりきり。

言葉高道 無数の棺桶が並ぶ。

扉男 もう、棺桶しか、戻って、こないんだ、ここには。

言葉高道 そしてひとつの棺桶の扉を開けたその時。

扉男 ！

マスノスケ ……ここは？

マスノスケ なあ、おい、ここは……？

扉男 ここは、ここは……日本です。

マスノスケ 棺桶に片足つつこんでるってまさにこれ。

扉男 確認されなかったんですか？

マスノスケ そりやさんなもんよ。

扉男 連絡入れます。こんなこと滅多にないんだけど、

マスノスケ ああ、いらねえよ。

扉男 いらね……って。片足突っ込んでんですよ！？

マスノスケ こういうのが時間の問題ってやつだな。

扉男 のん気に言ってるけどリアルだからその言い方。

マスノスケ せっかくなんだから。

扉男 え？

マスノスケ これだけの風景だ。なら嫌ってほど死臭が漂ってるはずなのに、ありがたいね。ちつとも匂わねえ。

扉男 そりゃ片足突っ込んでんですから。

マスノスケ そのうち目もかすむねえ。

扉男 片足、突っ込んでんですから……

マスノスケ 顔をしかめずに誰かと話なんてものが出来るんだ。もったいねえ
こんな時間。夕日が沈むまで、今まで出来なかった、顔寄せ合って喋り倒し
たい気分だ。

扉男 夕日……？ 今じゃ太陽は昇ったきり、沈みませんよ。いつだって真昼み
たいで。

マスノスケ 違うよ。私の夕日のことよ。

扉男 え？

マスノスケ 私が目を閉じれば、夕日が沈む。

扉男 ちよつと……

マスノスケ 目、開けるとまぶしい太陽見なきゃいけないもんな。

扉男 大丈夫ですか……？

マスノスケ あれだなあ。夕日の短いあの時間みたいなもんだ。まだ沈むなよ
まだ遊んでいたいんだ。まだもう少しだけ、まだ大丈夫な気がするのに、瞼
が、もう、勝手に落ちていくんだ……

扉男 ちよつと、大丈夫ですか？ ちよつと、

言葉高道 足についている証明書の名前を確認して。

扉男 マスノスケさん、マスノスケさん！

扉男 ……キツイ……きついつて。喋らない死体なら、もう……やっとなれた
のに……

マスノスケ というわけで、ちよつと話でもせんか？

扉男 余力残ってんじゃないですか！

マスノスケ 私も思ったねえ、結構しぶといもんだ人間は。

扉男 ……もろいです。

マスノスケ 若いときはそう思うもんよ。あんたは？

扉男 え？

マスノスケ あんたも帰ってきたのか？

扉男 いえ。僕は仕事で、ずっと、僕はずっと、

マスノスケ ずっと？

扉男 ずっとここにいたんです。それに気がつくのに、ずいぶん時間がかかりました。

マスノスケ ……ああ、あんた元シラズか？

扉男 知らずにいたほうが良かったのか、悪かったのか。もうどっちか分かりませんけど。戻される棺桶を整理して、身元の確認、連絡をとって引き取りそれ以外は、ここに。開けたりしなきゃね、これが棺桶だつてことさえ、気がつかなかった。

マスノスケ シラズにこんな仕事できないだろう？

扉男 知らなかったから出来ていたんだと思いますけど。でも、知っちゃったから。

マスノスケ イラズにはならなかったのか？

扉男 知っちゃったから、いらねえって出て行くこともできません。結局、戻って来るんだし、

マスノスケ こうやって？ 最後は故郷の土に埋められるわけか。私も。

扉男 家族は？

マスノスケ いいや。かまわんよ。どこに埋められようが、広く考えりやここが故郷だ。いいんだ。帰りたいかったんだ。絶望すりゃ誰だつて故郷に帰るさ。

扉男 マスノスケ……

マスノスケ おかしなもんでさ、故郷から遠く離れば、故郷がよく見えて、故郷に戻ると、旅先で出会ったものがよく見える。どんなもんかね、これはあれだな、家族と住んでいるところは親が鬱陶しくて彼氏のところに入り浸るけれど、結婚すると旦那がうっとおしくなつて実家に入り浸るみたいなもんか。あはははは。

扉男 あれ？ どっかだ……

マスノスケ なあ、あんた。夕日が沈むまで。

扉男 はい、やっぱりすぐに連絡……

マスノスケ どうせ止められんよ、日が沈むのは。だからせめてきれいに沈みたいと思ってるんだ、夕日だつて。

扉男 僕に、見届けろつて言うんですか。

マスノスケ 喋り倒したいだけだ。他に人がいるならあんたでなくていいが。

扉男 近くに、僕しかいませんね。

マスノスケ 付き合ってくれ。

扉男 見ず知らずの僕です。

マスノスケ 今出会ったからもう知り合いだ。

扉男 二度と出会えないのに知り合いつて言うのかな……

マスノスケ あんなに鼻についていた匂いが、風の匂い、火の匂い、鉄の匂い
悩まされていた死臭さえも、飛んだ、飛んだなあ。朝日が海面から出る時
は、ふたつに分かれるんだ。

扉男 ……あの、

マスノスケ ……実物と、海面に映った偽物と。なのに、ゆっくり旅を終え、
夕日を迎える頃には海面に沈んでいく太陽は、映し出された偽物とまたひと
つに重なりあつていくんだ。見えるね、今沈む夕日が。

扉男 大丈夫ですか？

マスノスケ 沈む今になって、故郷を欲しがる自分と、女を欲しがる自分が、
ああ、やっと出会えたよ。

扉男 聞きますよ。ちょうど、死体相手に話すのに飽きてきたところだったか
ら。

日ので 見て。

日ので 夜明けだ。本当に、日が昇る。

扉男 ここは、

日ので ここは、

扉男 ここは……日本です。

突然。

言葉高道、キーを打つのをやめてパソコンを閉じた。
椅子から立ち上がり、パソコンと少し距離を取る。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉高道に向かって。

言葉小笠原 続きは？

言葉小西 続きだよ、続き。

言葉太田 だからこの次のページのこと。

言葉小西 もうあるんだろう？ この続き。

言葉小笠原 続きだつてば。聞こえてる？

言葉高道、じっと考えて。

言葉高道 空白の終わりは次の始まり。

言葉小笠原、言葉小西、言葉太田はパソコンエリアへ戻り、

言葉中川、言葉真嶋がReadingエリアへ。

言葉大路が椅子に座り、

言葉高道はそれをじっと見る。

言葉高道の代わりに、言葉大路、パソコンを再び開き、キーを打つ。

言葉大路 聞こえてくるのは遠くからなのか、頭の中からなのか？ テレビから

それともただの耳鳴り？ いや、これは真夏の蝉か。

ぽ、みつつめのあかりも灯る。

2005年 『改訂版 さっちゃん』

言葉大路 拍手はいつのまにか八神一人の拍手に変わる。

八神 はい。それでおしまいですよ。じゃあ、どうぞ出ていってください。

朝子 いやあね。5時になったからって勝手に幕引かないでくれる？

八神 カーテンコールって終わりでしょ？

朝子 まだお話の途中よ。見ればわかるじゃない。お座り。

八神 ほらやっぱりそうなる。ありえない。こんなに長い台本ありえないでしょう。

朝子 台本じゃないわ。これは記録よ。毎日書いてたのね、あの人。1日を24時間に、24時間を1時間ごとに細かく。言葉も風景も書き連ねて。見せてあげるって言ったけど、駄目よね、舞台の上に本物乗せたって嘘に見えるだけなのに。

八神 約束は守りましたからね。

朝子 一言、一言の、今までの記憶。燃えるための言葉。砂つまり病にかかるよ、燃える火まで消しちゃうから。火をつけるのには理由があるのに。

八神 ……え？

朝子 少女を埋葬する火と、女の恋の火、ならあの人、火は？

八神 ……

朝子 あららら？

八神 何ですか。

朝子 あんた、

八神 僕が何ですか？

朝子 砂つまり病？

八神 はあ？ それはお話の中のことでしょうか？ ごちゃ混ぜにして話すのはやめてください。

朝子 目が笑ってないわ。覗き込むとその奥で言ってる。ザザザザザ。

八神 目が笑ってないのは生まれつきです。

朝子 灰色のね、砂嵐みたいな目。何をしたいのか、どこに行きたいのかさえ分らない目。

八神 それは台詞ですよね。

朝子 なるほど、最近増えたのね。

八神 あはいはい、そうですね。腐るほどいるんじゃないんですか。

朝子 だったらあんた、駄目じゃない書いておかないや。病気なんだから、いつどこで何があってどんな気持ちだったか。書いてないの？

八神 あなた、お芝居と現実の区別もつけられないんですか？

朝子 だって本当に降ったんだもの、あの人。

八神 あんた、本当におかしいんじゃないか……？

朝子 そうかもね。

八神 帰ります。

朝子 幕間の休憩ね。

八神 帰るんです。

朝子 なら明日もまたおいで。まだ終わってないんだから。

八神 明日にはあなたはここにはいないはずです。

朝子 カサなら貸してあげる。まだまだ止まないみたい。

八神 ……何がですか？

朝子 砂。見通し悪いわ。

八神 こっちまでおかしくなりそうだ。だから、

朝子 嫌だったんだ。こんなところへ来るのは？ お仕事タイヘンね。

八神 ……カサは、結構です。僕にはきれいな夕日が見えていますから。

朝子 見えていないのに見えるフリ、見えているのに見ないフリ。どっち？

八神 出て行く気なんか、はじめっからないんでしょう？

朝子 あるわ。だから初めてこうやってページをめくってるんじゃない。

八神 カーテンコール。その次のページは白紙じゃないですか。終わりでしょ？ いい加減にしてください。

朝子 そう、これがあの人の中の空白か。忘れてることさえ、忘れちゃったのよ。

八神 は？

朝子 この空白なら、私が覚えてる。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉大路、言葉高道に言った。

言葉大路 空白の終わりは次の始まり。

言葉澤田、言葉大路に連れて行かれるように、

言葉高道もReading エリアへ。

言葉真嶋、言葉中川パソコンエリアへ戻り、

今度は言葉太田が椅子に座った。

ぽ、よっつめのあかり、灯る。

2006年 『スパイク・レコード』

鎧 抜きました。

鎧 魚の骨も、獣の骨も、でもそのほとんどが人の骨かもしれません。目の前のベルトコンベアを流れていく土の中から骨を抜いて、いくつかに分けて一人分の骨が集まると骨壺に入れる。その先は知りません。トンネルの中にするすると伸びていくベルトコンベアに乗ったことがないのですから。だからあれは世界の穴に通じているんだと思っていました。朝の休憩は10時から10分。お昼休みは45分。3時のおやつは10分。5時30分にはベルトコンベアは止まります。私はタイムカードを押して眠ります。毎日の骨抜き作業が苦痛でもありません。それが当然だと思っていましたから。世界なんて知らなくても不満はないの。幸せよ。

鎧 そんな私を無知だと笑う男がいます。

鎧 世界の穴から、

鎧 私の耳に唇押し当てて、

鎧 にやりと笑った。これは八重歯でしょうか？ それともするどい牙でしょうか？ それとも傷をつける爪でしょうか？ それとも？

言葉太田 骨が言った。

言葉たち 「こんなに無知な僕らでも、未来を語ってもよいのだ」

妻 もしもし。

先生 ごめんごめん。ちよつと遅くなって、もうすぐ帰るから。初日だから、ほら例の転校生……

妻 今、空港なんだけど。

先生 は？

妻 雨降ってきたでしょ。洗濯物干したまんまだから。

先生 え、ちよつと待って。

妻 ちゃんと取り込んでおいて、洗濯物。

先生 え？ 何それ、旅行？

妻 観光じゃないわよ。

先生 何で空港？

妻 言ったでしょ、朝起きてすぐ。

先生 昨日の集会で話が盛り上がったんだろ？

妻 そうよ。

先生 靴を送ってあげようって。

妻 そうよ。裸足で瓦礫の上を歩いている写真見たでしょ。

先生 送るんだよね？

妻 物だけ送りつけるみたいな救援物資は嫌なのよ。今日届けに行くって言うたわよ。

先生 送るって言った。

妻 すぐに帰るわ。だから洗濯物、ほらすごい降ってきた。

先生 旅行なら一緒に行こうよ。

妻 遊びに行くわけじゃないのよ。

先生 同じだろ。

妻 本気で怒るわよ。

先生 お前がさ、その、何かイロイロやってるのはさ、

妻 何？

先生 ……暇だからだろ？

妻 暇つぶしだと思ってるわけ？

先生 だってさ、

妻 何か出来ないかって、私にも何か手伝えることがないかって思うことが、

暇つぶし？

先生 だってさ、働いてた時、そんなことしなかったじゃない。

妻 成長したの。あなたみたいにずっと無知なままじゃないの。知らないことは関係ない。戦争も差別も貧困も災害もあなたは知らないからそんなもの存在しないと思ってるのよ。無知って、平和でいいわね。

先生 俺はさ、出来もしないことばかり考えないんだよ。お前ひとりで何がどうなるわけ？

妻 だから何もしないって？

先生 じゃなくて、出来ることと出来ないことがあるだろう。

妻 私がやってることはね、先につながるの。10年や20年じゃなくてもっともっと先よ。

先生 そんなさ、遠くのことばかり考えないでよ。

妻 みんながあなたみたいだから、ちっとも良くならないのよ。

先生 そんなに駄目かな？ 目先のことだけ考えるの、そんなに駄目かな。

妻 だから、

先生 35歳になるまでに長男が生まれて、できれば年子で女の子も欲しい。

だったらチャイルドシートいいの買わなきゃ。風呂に入れるのはたぶん俺がするだろうし、年頃になったらどうせお父さんなんてどっかに忘れられるから小さい頃が勝負だろうな。俺が死ぬ頃に長男と長女が枕もとで孫なんか連れて、ああ悪くない。できればこの先50年くらいの幸せだけ考えることがそんなに駄目なのかな。

妻 同じよ、あなた。

先生 え？

妻 これから生まれてくる子どもたちのためにも世界は平和でなくちゃ。

先生 その前にさ、

妻 何？ もう行かなきゃ。

先生 俺たちの家はちっとも平和じゃないよな。

妻 あなた……今ここには、ミサイルも銃弾も飛んできていないのよ。

先生 ……分かった。

妻 分かってくれた？

先生 じゃあさ、俺たちの知らないところで、俺たちの知らない国が、俺たちの知らないうちに、俺たちの住んでいるところめがけてミサイルをぶち込ん

だあとで、もう1回話し合おう。

言葉高道、パソコンエリアへ戻る。

入れ替わりに、言葉小西がReadingエリアへ。

言葉太田 外は土砂降りだ。

鎧 雨……？

先生 終わりじゃないよ、山田くん。いや、その君。大事なのはさ、これから先の年表を作ることだから。

鎧 あれは……

先生 目先のことでもいいんだ。たかだか10年先でいい。夢はいいよ。将来の夢、未来の夢、先なんて暗闇だから、手探りだよ。暗闇の未来を語ろうじゃない。

鎧 花火？

先生 誰が洗濯物なんか取り入れるか、へーんだ。

鎧 雨なのに……？

生徒 いいんですか？

鎧 ううん、違う。

先生 何が？

鎧 花火じゃなくて、

生徒 ……暗闇の未来を？ こんなに無知な僕が、未来を語っても、いいんですか？

鎧 光？

先生 ……いいよ、いいんだよ。そんなことは当たり前なんだから。

鎧 違う。

先生 そうだよ、これが俺に出来ることなんだ。俺は出来ることからやるぞ、

山田、じゃなくてその君。大きくなったら何になりたい？

鎧 光じゃなくて、

生徒 何になってもいいんですか？

鎧 それとも、

先生 いいよ。学者にだって、オリンピック選手にだって、ボクシングの世界チャンピオンにだって、何になっただっていいんだよ。

鎧 あれは？

生徒 それなら、

鎧 あれは、

生徒 それなら僕は、

鎧 あれは何？

鎧だけが、暗闇の中に浮いている。

鎧 抜きました……魚の骨も……獣の骨も……でもそのほとんどが……人の骨
かもしれない……

鎧 あれは……何だったんでしょうか、突然の暗闇で……

鎧 誰か……灯りをください。真つ暗闇で、

鎧以外、見えるのはパソコンの光でうっすら浮かび上がる言葉たち。

ヒソヒソ、と声がする。

言葉たち、「ヒソヒソ」と語る。

鎧 誰でもいいから灯りをつけて！

ヒソヒソは止まない。

鎧 真つ暗で……自分の指先さえも……これは八重歯でしょうか？ もっとする
どい牙でしょうか？ それとも傷をつける爪でしょうか？ それとも？ 私が見
たあれは何だったんでしょうか……

ヒソヒソヒソヒソヒソヒソヒソヒソヒソヒソヒソ。

ふっと、消える。

暗闇から声がした。

生徒 それなら僕は、言葉になりたい。

鎧 犬も夢を見るのでしょうか。猫も夢を見るのでしょうか。草花も夢を見る
のでしょうか。風も夢を見るのでしょうか。空も雲も波さえも、夢を見るので
しょうか。骨は、骨も夢を見るの？ 語りかけ半ばの夢を、見るのでしょうか。

言葉大路、言葉澤田、言葉小西はパソコンエリアへ。

言葉太田、言葉中川はReadingエリアへ。

椅子には言葉真嶋が座る。

画面をじっと見つめ。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉真嶋 壊れているのは私？ 世界？ どっちだ？

ぽ、

いつつめのあかりも灯る。

2007年 『三日月エレファント』

大象 どこまで膨らむんだろう。

女 どこまで膨らむのかしら。

大象 いつ出てくるんだろう。

女 いつ出てくるのかしらね。

大象 予定日は？

女 2月28日。ただし去年のね。

大象 まる2年じゃないか。

女 まる2年よ。

大象 おかしくない？

女 おかしいわよ。象だって今ごろ産んでるわよ。

大象 象なのか？

女 あなた象なの？

大象 今まで気がつかなかったけど実はそうなのか。

女 私象なの？

大象 今まで気がつかなかったけど実はそうなのかお前。

女 私の鼻は長くないし母さんも長くないの。何なのそのバカバカしい問いかけは。

大象 気が紛れるかと思って。

女 気はまぎれないしその上ムカついて腹立たしい。

大象 はい、リラックス。力抜いてプリプリしないで、はいー、リラックス

ス。

女 どうせお医者にも見放されたわ。

大象 はい、落ち着いてリラックス。

女 手におえないって。

大象 はい、興奮せずにリラックス。

女 どの病院行っちゃって、

大象 はい、リラックス。

女 想像妊娠ですなんて言う始末。なわけないじゃん！

大象 大声禁物、はい、リラックス。

女 私のお腹をグリグリ触りながら言うのよ。

大象 はい……

女 「ほら何も映らないでしょう？ まっくらです。どこまでも闇」あ。

大象 え？

女 動いた。

大象 動いた？

女 あ。

大象 え？

女 また膨らんだ。ちよつと触って。

大象 ほんとだ。また膨らんだ。

女 どこまで膨らむのかしら。

大象 この中に何人入ってるんだらうね。

女 何それ。

大象 これだけ膨らんでるんだから。

女 人数の問題なの？

大象 可能性の問題だよ。

言葉真嶋 女の腹に耳をあててみる。

大象 ……音がする。

女 音？ 音くらいするわよ。

大象 どこかで聞いた音みたいで。

女 だから、

大象 し。
女 ねえ、何の音？

言葉たち し。

大象 ……チリリン。自転車のベル？ アクセルを踏む、道路を横切る車、クラクション、パツパー、人の足音、軋んだ音は玄関の扉、新聞がポストへ投げ込まれた音、目玉焼きの焼ける音、階段を降りるのはハイヒール革靴スニーカー。ガチャリ鍵を閉めた音、始まりのチャイム、携帯の着信音、エレベーターは下へ上へ、昼過ぎにコンビニの自動ドアが開く、噂話、内緒のコソコソ、密談、商談、会議、授業、誰かのいびき寝息寝言、寝返りをうつ音、テレビのニュース、喧嘩、喧騒、悲鳴、火花？ いや、銃声、救急車、サイレン笑い声、罵声、ため息、水が溢れ出す音、蛇口をひねる……町だ……

言葉中川、言葉太田はパソコンエリアへ戻る。

今、Radangu エリアには誰もいない。

言葉たちはみんなパソコンエリアに。

言葉真嶋、じっと画面を見つめてキーを打つ。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉真嶋 何が見える？

さっと椅子から立ち上がり、

今度は言葉小笠原が座りじっと画面を見つめてキーを打つ。

言葉小笠原 僕らの明日が書かれているかもしれません。

さっと椅子から立ち上がり、

今度は言葉中川が座りじっと画面を見つめてキーを打つ。

言葉中川 人が考えつくことなんて、現実はずぐに追いつくのよ。

さっと椅子から立ち上がり、

今度は言葉澤田が座りじっと画面を見つめる。

言葉澤田 この瞬間も、書いておかなきゃ。

そしてキーを打つ。

言葉真嶋、言葉高道、Reading エリアへ。

セリフは『箱師よ、その町の暁に釘を打て』から

言葉澤田 箱師は今も休むことなく作り続けている。何をつて？ 家、学校、病院、施設、映画館、劇場、ビル、町、全てを。箱師よ！

ぽ、むっつめのあかりも灯る。

言葉澤田 ああ、箱師よ。

2007年 『箱師よ、その町の暁に釘を打て』

研究者 私の口から、そんな言葉がこぼれて、

ヨスミ クリスチャン？

研究者 というわけでもないのに、ねえ。親を捨てようとしたその朝に、私は花壇の中、ダンボールに入った赤ん坊を拾いました。誰が捨てたのか、拾った私は途方にくれて、泣けてしまったんです。

ヨスミ 訳もなく、

研究者 意味もなく。私とは全く関係のないことなのに、なぜなんでしょうかね。今も不思議で、泣けるような、そんなものが、私にあったのかと。

ヨスミ 私は黄昏に泣いたけど、お宅は、

研究者 はい？

ヨスミ 昇る朝日に、祈ってたのね。

研究者 え？

ヨスミ 私も無宗教だけど、あるわ。どうしようもない時とか、お願いって思う時とか、いないって分かっているけど、祈ることがあるもの。

研究者 じゃあ、私は、

ヨスミ ええ……

研究者 何を祈っていたんでしょうか……？

ヨスミ これ以上時間がすぎない様に、じゃないの？

研究者 それは、ええ、確かに、

ヨスミ だって、まだその赤ちゃんが生きていたから泣けたんじゃないの？
研究者 え？

ヨスミ 死んでしまっていたら、きっと泣かなかったんじゃない？

研究者 それは……

ヨスミ お宅、きつと命に泣いたのよ。私と反対ね。

研究者 え？

ヨスミ 沈んでいく夕日に、ああ、こんな私でもまだ生きていかなきゃならな
いんだわって終わりを考えて泣けるとしたら、反対じゃない。だって朝日は、
希望だもん。

研究者 箱の中には、希望、ですか。

ヨスミ もうお弁当箱の中はからっぽよ。

研究者 希望ではなく、前兆らしいです。

ヨスミ え？

研究者 有名な、パンドラの話。

ヨスミ そうなの？

研究者 これから起こる全てのことを分かっていると、絶望するんだそうです。
ヨスミ ああ、そうね。70才まで1人きりでずっと弁当詰めてるって未来が
分かったら、今ここで助けなんてこなくていいって思うもの。希望って願望よ
ね。今よりもっとよくなる。ああなればいい、こうなればいい。だから頑張ら
なきゃ。食欲なくても食べなきゃね。食べなきゃね。

ヨスミ 人間ってよく出来てる。

研究者 ええ、全く。

ヨスミ 明日があるから頑張らなきゃねって。

研究者 明日……嫌な名前だ。

ヨスミ え？

研究者 明日と書いて、アスと読みます。

ヨスミ ええ、そうね。

研究者 でなくて、名前、私の。

ヨスミ ああ。

研究者 今のこの状況じゃあ、名前負けですね。

ヨスミ でも、青年の頃なら合ってたんじゃない？

研究者 青年の頃。青年だったから、泣けたんでしょか……

ヨスミ それでも、親は捨てたの？

研究者 ……はい。

ヨスミ そう。

研究者 拾った赤ん坊を警察に届けて、事務的なことを済ますと、私はすっかり元通りになってしまっただけで、泣けたあの瞬間は、どこに行ってしまったんだろうって。

ヨスミ 後悔は？

研究者 さあ、どうでしょう。

ヨスミ 贅沢な話ね。

研究者 ええ、全く。

ヨスミ ねえ、あれからどのくらい経ったかしら？

研究者 希望はまだ、ありますから。

ヨスミ そうね、ここから出られたら、願望は、あるもの。

研究者 どんな？

ヨスミ お弁当詰めるわ。

研究者 え？

ヨスミ 仕事じゃないの。知らない誰かの口にほおこまれるんじゃないって、誰かのために、カラッポのお弁当の四隅を埋めていくの。例えばそれが自分のためのお弁当の四隅を埋めたっていいわ。ねえ、知ってた？ 赤ちゃんが黄昏に泣くの、99%が寂しさのせいらしいわ……ね、今、

研究者 何か聞こえませんでしたか？

言葉高道は。パソコンエリアへ戻る。

研究者 当たり前前に目が覚めると、当たり前前にテーブルに朝食があって、学校や会社に当たり前前に出かけていくんです。当たり前前に夕食を囲む食卓に座って今日の1日はああったこうだったと話します。それから、もう大人なんだし1人で大丈夫。もう大人なんだし、仕事を見つけて、住む場所を見つけて、1人で大丈夫だけど、さらに知り合いを作って、友だちを作って、愛せる誰かを見つけて、そんなこと、誰だって当たり前前にするものよ、と言われて。私

は当たり前前のことに必死になりました。けれど必死になればなるほど、その理想の当たり前前から、どんどん遠ざかっていくようで、

研究者 ……あれから、どれくらい経ったんでしょうか？

研究者 こういう時って、他の人はどうしているんでしょうか……？

研究者 すいません、今、話しかけてみたんですけど。

研究者 独り言だったら、それに答えられると妙に気恥ずかしいんですが、

研究者 ……答えてください。

研究者 あれから、どれくらい時間が経ったんでしょうか……

研究者 時間を、止めることは出来ないんでしょうか？

研究者 まだ、俺にも、あったんだ。だったら、なんでだろうなあ。昇る朝日に泣いて、沈む夕日に泣けるくらいなら、なんてことない昼間を、もっと大切に出来たかもしれないのに。携帯さえつながれば、連絡も取れるのに……

研究者 箱の、隅っこ、あったのは、前兆。

研究者 だから、まだ大丈夫。まだ、願望はある。まだ……

研究者 何が見える？

2008年 『100年トランク』

言葉真嶋はパソコンエリアへ戻り、

言葉小笠原、言葉澤田はReading エリアへ。

椅子には言葉小西が座り、キーを打つ。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉小西 見えてないのに見えるフリ、見えているのに見ないフリ、どっちだ？

ぽ、ななつめのあかりも灯る。

2008年 『100年トランク』

カタメ ラーンラ ランラン ランランランラン 蝶々でさえも 二匹でいる
のに なぜに僕だけ ひとりぼち ラーンラ ランラン ランランランラン

トラ あの時は、美しく見えたはずなのにな……

言葉小西 トラのトランクが少し開いて、カタメの手だけが見えた。

カタメ よろしいの？

トラ 何が？

カタメ 何かを頼もうとしたでしょう？

トラ やめた。

カタメ そう。

トラ あの時は、美しいと思ったのにな。

カタメ それがあなたの本心なのね。

トラ 違う。蠟燭の明かりで騙されたんだ、きつと。

カタメ 連れ出したのはあなたでしょ？

トラ はじめから太陽の下だったら、こんなことには。

カタメ 基準はいつでも変わるじゃない。手に入れた途端に色あせるとか、

釣った魚に餌はやらないとか。

トラ 男女関係の例えは使うな。

カタメ 身持ちが固くなければ私だって、

トラ だって、何だ？

カタメ 今まで出会いはあったのに。ダメねえ。固すぎるのも。というのは建前で。

トラ うん？

言葉小西 カタメはトランクの中からひよいと顔を見せ、トラは思わず目をそむける。

カタメ 醜い顔でしょ。恐ろしいでしょ。人が見れば笑うか、卒倒する顔よ。

目をつむれば見えないのに、身持ちが固いのは私のせいではないわ。

トラ やっぱり太陽の下が真実だろう。

カタメ それは言い訳かもね、あなたが醜い、醜いっていうから、私もそんな気になってきただけかもしれないわよ。

トラ 他の人間だって、お前を見て驚いていたじゃないか。

カタメ あなただって人は、周りの意見に振り回されるのね。

トラ それもひとつの基準だろう。

カタメ 人形のフリしなきゃトランクから出られないって言うなら、ちようどいいわ。あなたは人形師、私は人形、それで日銭を稼いで生きていきましょ。

トラ 結婚したのは、ただの勢いだ。

カタメ だけど妻だと紹介したじゃない。

トラ 妻とは言ったが、お前とは一緒に寝てない。

カタメ 形だけでいいのよ。どうせ身持ちが固いんだから。

トラ トランクごと、あの運び屋にどこかへ運ばせることも出来る。

カタメ でもしなかったじゃない。

トラ それは、どうせどこかに置いても、すぐに足がつくから……
カタメ もう帰る場所もないもの。あなたと一緒に行くしかないわ。さ、何を

して差し上げたらいいかしら？

トラ そんなに妻だって言うなら、私のすることに文句は言わないこと。
カタメ イガイと古いタイプなのね。

トラ 私がどこへ行こうと、何をしようと。

カタメ とことん古いタイプね。

トラ 私は今から旅の目的をひとつ持つことにしよう。

カタメ どんな目的？

トラ 世界の果てにお前を捨ててに行くんだ。

カタメ 世界の、果て？

トラ どこか適当なところにお前を捨てても、すぐに戻ってくるだろう。いつも徒劳感いっぱいになる。だけど、世界の果てだ。そこならどこからも足つかないと思わないか？

カタメ 世界に果てなんてあるのね。知らなかった。世界は丸いから終わりはないと思ってたのに、あるのね。そこはどこにあるの？ 行ってみたいわ。

トラ それは、だから……だから今から探すんだよ。

カタメ いいわ。世界の果てまで連れて行ってちょうだいよ。果てが見つかるまでは生活しなくちゃいけないから、やっぱり私は人形で、あなたは人形師ね。

言葉小西 カタメはスポットとトランクにすっかりおさまって、声だけが聞こえる。

カタメ さ。運んでちょうだい。人形師のあなた。

セリフは『くちなしジョッキ』から

かすかに聞こえる「右、左、右、左」

言葉たち「右、左、右、左」

右、左の号令の中、

言葉澤田はパソコンエリアへ。

言葉高道と、言葉小西はReadingエリアへ。

言葉小笠原はReadingエリアに留まるが、立ち位置は変わる。

椅子には誰も座らない。

ぽ、やっつめのあかりも灯る。

言葉たち、パソコン画面に群がった。

「右、左、右、左」は聞こえ続ける。

2009年 『くちなしジョッキイ』

シラケ シラケているのは仕方がない。思い煩う内臓がありませんから。カラップですから。恐怖感はどこから来ますか？ 罪悪感はどこから来ますか？ 絶望感はどこから来ますか？ 敗北感は？ 焦燥感は？ あるいは幸福感はどこから来ますか？ 悩むとキリキリ痛む胃、何かを吸収する小腸、笑うと上下する横隔膜、誰かを想って苦しくなる胸。早鐘になる心臓。この内側にはそれがない。どこまでも風景はシラジラと。この内側のカラップ埋めるために、だからひとつ、売ってもらえやしませんか。

「右、左」が囁きから、弾けるような声に変化して。

言葉たち 右、左、右、左。

僕 列は乱すな、

言葉たち はみ出すな。

僕 登校下校、

言葉たち かたまつて。

僕 青信号でも、

言葉たち 手上げて。

僕 知らない人には、

言葉たち 知らんふり。

僕 危ない奴には、

言葉たち 近づくな。

僕 やられる前に、

言葉たち やつたるで。右、左、右、左、右、左……

言葉中川 これ、いつまで続くん？

言葉大路 あれのせいや。行方不明の女子。隣のガツコの。

言葉太田 誘拐やる。

言葉真嶋 家出ちゃう？

言葉澤田 四次元ハマったんやつて。

言葉太田 マジで！ 帰り道に！？

言葉真嶋 ちよー、怖いって、列からはみ出すなつて。

言葉澤田 はみ出すなやプール開きで。

言葉たち ぎやはははは。

言葉中川 男子サイテー。

言葉大路 それから？

言葉真嶋 それつきり。

言葉大路 最近多くない？

言葉太田 新たなる拉致や、拉致。

言葉澤田 教頭のズラを拉致ったの俺やー、いうねん。

言葉たち ぎやはははは。

言葉中川 笑い事ちゃうつて。

言葉真嶋 四次元はまったんやつたらケーサツなんか太刀打ちできひんやん。

言葉澤田 アホかーいうねん、なんやねん四次元つて。

言葉大路 だって知ってる？ 南校舎、ありえへん5階に続く階段があるんやつて。

言葉太田 その階段昇ったやつ、帰ってこーへんかったつて。めっさ怖い鬼怖いって。

言葉中川 ウワサやろ。

言葉太田 ガッコの七不思議。

言葉澤田 ラッコの七不思議。

言葉太田 知ってる。あいつらワキのところにポケットありよんねん。

言葉真嶋 電車に乗ってる赤い女のウワサって知ってる？

言葉大路 知ってる。全身、マユゲまで赤色なんやろ。

言葉真嶋 3回見ると死ぬんやって。

言葉大路 知ってる。よしこ2回見たって。

言葉真嶋 むかし、口裂け女っておったん知ってる？

言葉たち 知ってる。

言葉真嶋 あれホンマやったんやって。

言葉太田 あれは米軍の噂調査やつつの。

言葉澤田 あたしキレイ？

言葉たち ぎやはははは。

言葉真嶋 やめるや。今マスクしてるやついっぱいおるんやから。

僕 カラッポ男って知ってる？

言葉たち 知らーん。

僕 返せ返せって腹さばきにくるんだ。そいつはきつとマスクして人ごみ混じってる。

言葉たち おおい！

僕 マスクで顔隠して、でも本当はそのマスク。

言葉たち そのマスク？

僕 秘密シャットアウト専用。

言葉たち おおう。

僕 人ごみすれ違い様に腹かっさばいて、

言葉たち おおう。

僕 内臓ごっそり盗っていく。

言葉真嶋 ナンやねんやめるや、今マスクしてるやついっぱいおるんやから。

僕 秘密シャットアウトだから誰の内臓かは分からないけどその男、言葉たち うん。

僕 くちなしの匂いのする内臓探してるんだって。

シラケ なぜ泣かないのかと言われました。

梶子 誰に？

シラケ 人に。街に。泣かない人間は人を愛せないと言われました。愛せない人間は人の苦しみが分からないと言われました。苦しみが分からないと助けることができないと言われました。助けることができないと誰からも助けてもらえないと言われました。だから自分でなんとかするしかない。

梶子 ……今、もしかして悲しいん？

シラケ いいえ。事実を言っただけです。

梶子 ほんまに？ 私にはすごい悲しそうに聞こえたから。

シラケ 君の気持ちの取り方の問題です。

梶子 そんなに、ほしいん？

シラケ それが始まりです。

梶子 どうしたら気が済むんやろうねえ。

シラケ 気持ちの持ちようじゃないですから。

梶子 あのなあ、あるって想像してみたら？

シラケ イメージトレーニング、とかいう。

梶子 私の全部あげる。

シラケ は？

梶子 って、想像してみたら。具体的やん。

シラケ それは困る。内臓が出来たら恋をするんだから。

梶子 それも恋やん。そう思うねん。だって、ほら、私は、誰とも繋がらへんけど、もしかしたらシラケとは繋がれるかもしれへん。私の心臓が、シラケのここに入る。

梶子 肺はここ。横隔膜はここ。

梶子 胃、小腸、大腸、盲腸、腎臓、肝臓、裂けられへん私は、シラケの内臓から繋がる事が出来るかもしれへんやん。繋がると、恋やと思わへん？

シラケ それじゃ意味がない。俺は俺でこの無表情がなくなると、君は君でそこにいて、

梶子 ……私、シラケの無表情怖ないよ。

シラケ それは……？

梶子　なんでやるねえ。分からんな。よく分からんけど。

シラケ　涙が出るのが、うらやましい。

梶子　ハゲが出来たんやから、泣くわ。

シラケ　あんなに水を飲み干しているのに、その水が目から流れるだけでいいのに。

梶子　知ってた？ 流れる理由で味が違うの。

シラケ　涙が？

梶子　あくびの時の味は薄くて、怒ってる時は苦いねん。

シラケ　悲しい時は？

梶子　塩辛い。

シラケ　くちなしの匂いがする。

ドン

ドン

ドン

ドン、と響いた。

地鳴りのような、

太鼓のような、

大砲のような。

地鳴りのような音がする。

言葉小笠原と言葉小西はパソコンエリアへ。

言葉澤田、言葉真嶋はReadingエリアへ

椅子には言葉高道が再び座る。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉高道　　こんな書いた覚えがない。

ぼ、このつめのあかりも灯る。

2010年 『照準 ZERO IN』

息子　久しぶりに実家に帰ったんです。

医者　はい。

息子　ムシの知らせってやつです。

医者　はい。

息子　こんなことが起こるもんなんでしょうか。

医者　よくありますね。

息子　よく、あるんですか。同じような症状で、他の人も、

医者　よくあります。

息子　だって、先生。人間が縮んだりするもんでしょうか。

医者　男根だって伸び縮みするじゃないですか。

息子　は！？

医者　あらご存知ない？　あなたお持ちじゃない？

息子　ありますよ。

医者　じゃ、伸び縮みしたことないってこと？ 膨らまないの？ 悩んでるの？
ごめんなさい無神経で。

息子　私の男根問題ではなくて、

医者　はい。

息子　母が縮んでしまったんです。

ドン、と響いた。

地鳴りのような、

太鼓のような、

大砲のような。

言葉真嶋は、Reading エリアにとどまったまま、

言葉中川、言葉小笠原がReading エリアへ。

ビフオア　あー縮んじやった。

アフタ　あー萎んじやった。はいこれ見て。

ビフオア　説明書。

アフタ　割愛するけど、

ビフオア　注意書きなど、

アフタ　読んどいて。

ビフオア　とりあえず

アフタ　これ、

ビフオア　口に入れる、

アフタ　そして、

息子　ちよつと、

ビフオア　はい手どけて、

アフタ　あとはここを、

ビフオア　シュコシュコするだけ。

息子　空気入れに見えるんですけど。

アフタ　はい手どけて。

息子　高い金払って、これ？

ビフオア　人気商品です。

アフタ 今だけのキャンペーンで、
ビフォア もう一個ついてくるね。

息子 母親一人だから。

ドン、と響いた。

地鳴りのような、

太鼓のような、

大砲のような。

言葉中川、言葉小笠原はReading エリアにとどまったまま、

言葉小西、言葉太田もReading エリアへ。

講師1 はいごきげんようどうぞ。

息子 良かれと思つて医者に行ったのに。

講師2 呼吸を整えて。吸つて吐いて。体制キープ。

息子 どうしてこんな格好をさせられているのか。

講師1 母親といえば子守唄ですわ。

息子 聞いたことありません。

講師2 まさにあなたみたいな人に来てほしいワークショップですから。

息子 あ、はあ。

講師1 はい、年々ゴロゴロしていた僕が、続きましょう。

息子 歌えばいいんですか？

講師2 歌を栄養にシュコシュコしてくださいな。

息子 それで元に戻るんですか。

言葉小西、言葉太田はReading エリアにとどまったまま、

言葉大路もReading エリアへ。

嫁 イスラエル地区が縮んでレバノン地区になってそのしわ寄せでイラク地
区が縮んでイラン地区が縮んでアフガニスタン地区が縮んでもうイスラマ
バード地区になったところがさらに縮んで中国地区が縮んでソウル地区が縮
んで、

嫁 縮んだって、地球の話でしょ。

息子 母さんの話。

嫁 どうしてお義母さんが縮まなきゃならないの？

息子 俺だよ。

嫁 え？

息子 俺が、栄養、摂りすぎたんだよ。だから、

嫁 だから？

息子 返さなきゃ。そしたら、元に戻るんだから。そのために、良かれと思つて医者行つて、民間療法行つて、ワークシヨップ行つて、そしたら、

嫁 請求書。

息子 こんなときくらい、ナンかしてやりたくて。

嫁 ずっとほつたらかshにしたのに？ 今さら？

息子 だから、

嫁 付き合つてるときからあなた天涯孤独なのかと思つてたのよ。結婚式だつて呼ばなかつたし、お正月だつて、誕生日だつて、あたしが無理やり電話したんじやないの、ナンかしてあげられる時間はいっぱいあったのに、それが今さら？

息子 だから今、後悔してるんだろ。

言葉高道はキーを打たない。

ただ読み上げる。

言葉高道 息子は空気入れを片手に説明書を読む。

息子 ♪年々ゴロゴロ していた僕が あなたに 還してあげましょう もらったいろはと ちりぬるを♪

言葉高道 空気入れで母親に栄養を入れる。シユコシユコ。母親の皮膚が伸びている。ゆらり、と風船のように、母親は風に揺れた。

息子 こんなだつたかなあ。

言葉高道 息子は説明書を取り出して。

息子 「完全に元に戻るまでおこなってください。途中でやめると再生が不可能になる恐れがありますのでご注意ください、

息子 ヤバイヤバイヤバイ。年々ゴロゴロしていた僕が、

言葉高道 シュコシュコ。どんどん膨らむ。シュコシュコ。

息子 こんなだったかなあ……こんな人だったかなあ……

息子 元に、戻るまで、って、元につて、元は、どんなだったっけ……？

言葉高道 ゆらり、母親の大きな瞳が息子を見下ろす。

息子 しまった。また後悔だな。

息子 どんな人だったか、母さん。ほったらかしてたからさ。俺母さんのこと何にも知らないよ。

言葉たち ドン。

言葉高道 銃撃戦が始まる。大きく膨らんだ母親の体を、いくつもの砲弾が通り過ぎる。母親の体は弾けて、千切れて、四方八方に飛び散る。その母親の体の中から、大量の色とりどりの紙吹雪。

言葉たち ドン。

言葉高道 ドン。

言葉たち ドン。

言葉高道 ドン。

言葉たち ドン。

言葉高道 パレードがやってくる合図のようだ。

言葉たち ドン。

言葉小笠原 か

言葉小笠原・小西 か

言葉小笠原・小西・大路 かみ

言葉小笠原・小西・大路 かみふぶ

言葉小笠原・小西・大路 かみふぶきが

言葉中川・真嶋・太田 かみふぶきが舞って

言葉小笠原・小西・大路 まって

言葉中川・真嶋・太田 待って

息子 パレード

言葉たち パ

言葉たち パ

言葉たち パ

息子 パレード

言葉小笠原・小西・大路 掛け声

言葉小笠原・小西・大路 行進

言葉小笠原・小西・大路 コスチューム

息子 パレード

言葉中川 そ

言葉中川・真嶋 そ

言葉中川・真嶋・太田 それぞれ

言葉中川・真嶋・太田 どれどれ

言葉中川・真嶋・太田 それぞれの

言葉小笠原 じ

言葉小笠原・小西・大路 じ

言葉小笠原・小西・大路 じ

言葉小笠原・小西・大路 時代は

息子 パレード

言葉中川・真嶋・太田 それぞれの

言葉小笠原・小西・大路 掛け声行進コスチューム

言葉中川・真嶋・太田 それぞれの

言葉小笠原・小西・大路 ルール

息子 パレード

言葉中川・真嶋・太田 歩く

言葉中川・真嶋・太田 進む

言葉中川・真嶋・太田 先へ

言葉小笠原 じ

言葉小笠原・小西 じ

言葉小笠原・小西・大路 じ

言葉小笠原・小西・大路 時代は

息子 パレード

言葉たちの ように

言葉中川 す

言葉中川・真嶋 す

言葉中川・真嶋・太田 進む歩く行進先へ

言葉小笠原・小西・大路 太陽は

言葉中川・真嶋・太田 こちらから

言葉小笠原・小西・大路 足元に
言葉中川・真嶋・太田 影
言葉小笠原・小西・大路 残して
言葉中川・真嶋・太田 影
言葉小笠原・小西・大路 進む
言葉中川・真嶋・太田 影
言葉小笠原・小西・大路 歩く
言葉中川・真嶋・太田 未来の
言葉小笠原・小西・大路 影
言葉中川・真嶋・太田 先へ

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2004年 『フルオーケストラ』

言葉高道・大路 ズレてるんだ、きつと。だってしようがない。見て、馬鹿
ばっか。馬鹿が奏でる日常だ。あの中でズレないほうがおかしい。

言葉たち パ

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2005年 『トキシラズ』 黎明編

言葉高道・小西 本当に俺、どこまできちやっただらう。帰る玄関探し続け
て、どこまできちやっただらう。せめて、せめてさ、誰か知り合いにでも
出会えれば、なんか、まだ気持ちも落ち着くの。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2005年 『トキシラズ』 望郷編

言葉高道・小笠原 目に見えない香りは記憶と同じ。その香り、嗅いだ記憶と
一緒に残っています。覚えのない生まれる前の香りでも、忘れてしまったあ
の日の一瞬、それでも体が覚えていきます。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2005年 『改訂版 さっちゃん』

言葉高道・中川 これあんたが書いた本。始まりの言葉があるの。ねえ、人間
は何で出来ていると思う？ 燃えずに生きていけると思う？ 絶対に忘れられ
ないことってあると思う？

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2006年 『スパイク・レコード』

言葉高道・小西 ただ頭の溝に情報叩き込んで、骨身に染みるまで繰り返す。
そうすりや骨だけになったとしても、染み込んだ言葉でいとしい人の骨見抜けるでしょうか。先生、僕が語った未来そのものが目の前にあります。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2007年 『三日月エレファント』

言葉高道・太田 仕事の書類の山、給料明細、押し付けられた残業、ニヤニヤする上司、使い物にならない部下、えい、吸ってしまえ。ひとさじの幸福、ひとさじの不安、ひとさじの憎しみ、ひとさじの悲しみ、ひとさじの痛み、ひとさじの怒り、ひとさじの、どうでもいいか、どうでもいいか、どうでもいいか、えい、吸ってしまえ。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2007年 『箱師よ、その町の暁に釘を打て』

言葉高道・真嶋 箱師なら、地球の裏側の、その外側までも作った箱師なら、

せめて、これ以上時間が過ぎないように、あの夜明けに釘打つことくらい出来るんじゃないでしょうか？

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2008年 『100年トランク』

言葉高道・澤田 カタメ。カタメ。返事を、しないのか？ 長く、旅を続けすぎたか？ カタメ、ずいぶん、長い間旅を……ああ……世界の果てだ……

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2009年 『くちなしジョッキイ』

言葉高道・小笠原 底のソコまで。見えなくても何か描けばそれが想像につながる。そのうち想像がソコブチ破って進化する。そしたら速いんだ。想像が進化して、今度は僕が追いかけられる。その時、何が起るんだろう。梶子の匂いがする僕に、何が起るんだろう。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

2010年 『照準 ZERO IN』

言葉高道・大路 後悔はまだ見たことがない。見るんじやなくて、やってくる
のよ。遠い向こうのほうから、ゆっくり。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

言葉たちはパレードを繰り返す。

言葉たちの声に呼応するように、

今までひとつずつ灯っていたはずの灯りが、

パツ……パツ……と、点滅し始める。

明滅する。

パパパパ……

パツ……

パツ、

ひとつ、ひとつ、最後の灯りを振り絞るように、

消えていく。

言葉たちはそれでもパレードをやめない。

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パレード

言葉たち パ
言葉たち パ
言葉たち パ

言葉たち パ
言葉たち パレード

言葉高道、パタリとパソコンを閉じた。
言葉たちも止まった。
灯りはかろうじて最後の一つきり。
それも明滅をしている。
その灯りをじっと見つめ。

セリフは『改訂版 さっちゃん』から

言葉高道 何をしたいか分からない。何を書きたいか、もう……

言葉たちは、明滅する最後の灯りの下に集まる。
今にも消えそうな灯りを見上げて。
ひとりの俳優が、手を挙げた。
もちろんあかりは高くて届きはしない。
またひとり、手を挙げた。
ひとり、またひとり。
やがて言葉たちはみんな灯りを掴もうと手を挙げる。
その時ふっと、
あかりが消えてしまった。
いや、消えてしまったのではない。
ただ落ちたのだ。
手を挙げた言葉たちの手の中に。
指の隙間から、溢れるかすかなあかり。
そのかすかなあかりを手に包み込み、
言葉高道に差し出した。

セリフは『凜然グッドバイ』から

言葉澤田 見えます。

言葉中川 見えるか。

言葉真嶋 見えます。

言葉小笠原 何が見える？

言葉小西 見えませんか？

言葉大路 見える。

言葉太田 言葉。

言葉澤田 見える。

言葉中川 ハロー。

言葉真嶋 見える。

言葉小笠原 グッドバイ。

言葉小西 見える

言葉大路 いつかまた。

言葉太田 見える。

言葉澤田 いつしかまた。

言葉中川 見える。

言葉真嶋 ハロー。

言葉小笠原 見える。

言葉小西 グッドバイ。

言葉大路 見える。

言葉高道 ハロー……

言葉太田 見える。

言葉高道 グッドバイ……

言葉たち、灯りを手に歩き出した。

一列に連なって、客席の通路を歩き、

扉を開けて、劇場を出る。

劇場の外へ、外へ。

灯りを連れ出していく。

言葉たちの後ろ姿を見て、

言葉高道 言葉が、皮膚の下で這い回りはじめました。

言葉高道もまた、劇場の外へ。

言葉を外へ連れ出すのは、いつだって俳優たちだ。

おしまい

言葉たち

『フルオーケストラ』

奇々

裸々

『トキシラズ』黎明篇

日ので

扉男

『トキシラズ』望郷篇

日ので

扉男

マスノスケ

『改訂版 さっちゃん』

八神

朝子

『スパイク・レコード』

鎧

先生

妻

生徒

『三日月エレファント』

大象

女

『箱師よ、その暁に釘を打て』

研究者

ヨスミ

『100年トランク』

トラ

カタメ

『くちなしジョッキ』

梶子

シラケ

僕

『照準 Zer In』

息子

医者

ビフォア

アフタ

講師1

講師2

嫁

俳優たち

稽古着 1

稽古着 2

『さぽろぺ』

月子

古川

けい

そう

大木

『黒子禁止』

聖

霞

勇記

『こども魂』

プリケツ

隊長

エログチ

ピンコ

ハンガー

花屋

『深流波』

藍

真

昇子

『つぶならべ』

樹 (女)

樹

『ひとよ一夜に18片』

忍

日世子
花嫁
刃

『獣のこのこ』
猿丸

『眠りの切り札』
香

馬男
鹿子
鍛冶屋
捏造女

『アドウェントゥーラ』
模型屋
世紀

『誰もが手にしたるもの』
碧
萌
茜
銅
葦